

自今官費ヲ給ス	海軍軍醫生徒 姓 名
年 號 月 日	海軍軍醫學校

第十三條 生徒ノ學期中一年ヲ冬夏ノ二季ニ分チ冬季ハ每年九月十五日ニ始リ翌年

三月三十一日ニ終リ夏季ハ每年四月十五日ニ始リ七月三十一日ニ終ル

第十四條 生徒學期中疾病又ハ事故ニ由リ二箇月以上課程ヲ踐ムコト能ハスシテ定

期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ次年生ニ編入ス可シ

第十五條 生徒ノ學科ハ物理學化學動物學植物學解剖學生理學組織學藥物學調劑學

病理學內科學外科學眼科學產科學婦人病學斷訟醫學普通衛生學臨床實驗英學及體

操ノ二十科トス

第十六條 生徒修學中ニ受ク可キ試験ハ左ノ如シ

第一 小試験

此試験ハ臨時ニ施行ス

第二 中試験

此試験ハ每年冬夏二季ノ終リ即チ三月七月ニ於テ施行ス

第三 前期大試験

此試験ハ第二冬季ノ終ニ施行ス其科目ハ物理學化學動物學植物學解剖學生
理學組織學英學ノ八科トス

第四 後期大試験

此試験ハ第四夏季ノ終ニ施行ス其科目ハ藥物學調劑學病理學內科學外科學
眼科學產科學婦人病學斷訟醫學普通衛生學臨床實驗英學ノ十二科トス

第十七條 生徒卒業ノ順序ハ各試験ノ得點數ヲ合算シ其多寡ニ因リ之ヲ定ム

第十八條 生徒大中小試験及第ノ格例及其等級ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 各科全點數ノ十分ノ六以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分
ノ八以上ヲ得タル者ヲ一級トス

第二 各科全點數ノ十分ノ五以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分
ノ六以上ヲ得タル者ヲ二級トス

第三 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分
ノ五以上ヲ得タル者ヲ三級トス

第十九條 及第及卒業ノ生徒ニハ左ノ證書ヲ授與ス

第一 及第證書

此證書ハ中試験及前期大試験及第ノ者ニ授與ス
第二 卒業證書

此證書ハ後期大試験及第ノ者ニ授與ス

第二十條 生徒前期大試験ニ落第スル時ハ三箇月以内ニ更ニ試験ヲ行ヒ後期大試験ニ落第スル時ハ次年生ニ編入シ一箇年以内ニ更ニ試験ヲ行フ

第二十一條 落第者試験ノ法ハ其落第シタル學科ノミ試験スルモノトス

第二十二條 休業中ノ外ハ生徒ニ旅行或ハ歸省ヲ許サス但父母看病ノ爲メ歸省或ハ休課ヲ願出ツル者ハ此限ニ在ラス

第二十三條 生徒疾病ニ依リ出席シ能ハサル時ハ其都度點檢前ニ必ス身元引受人ヨリ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ監事ニ届出ツ可シ

第二十四條 官費生徒ニシテ海軍軍醫學校條例第十二條第一項第二項ニ該リ生徒ヲ免シタルトキハ其日ヨリ三十日限リ身元引受人ヲシテ其學資ヲ償還セシム

第二十五條 校長ハ時々教官ヲ會シ教授ノ方法ヲ議シ學生及生徒ヲシテ學術進歩ノ便益ヲ得セシムヘシ又試験成績ヲ調査シ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

第二十六條 教官ハ各擔任ノ學術教授ヲ掌リ試験ヲ行ヒタル時ハ成績表ヲ製シ之ニ

意見ヲ附シ校長ニ出ス可シ

第二十七條 監事ハ校則ヲ維持シ學生及生徒ノ容儀品行及勤惰ヲ監視シ學生及生徒ニ係ル願届其他一切ノ事務ヲ掌理ス

第二十八條 監事ハ毎朝授業時十五分前生徒ヲ整列セシメ之ヲ點檢シ又時々其寄宿所ヲ巡視シ實況ヲ校長ニ報告ス可シ

第二十九條 會計主務ハ金錢物品ノ出納購買ヲ掌リ會計庶務ヲ整理ス
第三十條 屬ハ文書ノ往復其他庶務ニ服ス

●鎮守府條例制定

明治二十二年五月 勅令第七十二號

朕鎮守府官制ヲ廢止シ鎮守府條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府條例

第一條 帝國ノ海岸及海面ヲ區畫シ五海軍區トシ各海軍區ニ鎮守府ヲ置シ鎮守府ハ其所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條 鎮守府ヲ置ク港ヲ軍港トシ海軍ニ於テ守備スル地ヲ要港トス
軍港要港ノ境域ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 海軍區ノ區畫ハ左ノ如シ

第一海軍區

陸中國南九戸北閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟呂東牟呂郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面

第二海軍區

紀伊國南牟呂東牟呂郡界ヨリ石見長門國界ニ至リ又筑前豊前國界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面并内海

第三條海軍區

筑前豊前國界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向國南那珂南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及壹岐對島ノ沖繩海岸海面

第四海軍區

石見長門國界ヨリ羽後陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面

第五海軍區

北海道陸奥及陸中國北九戸南九戸兩郡ノ海岸海面

第四條 第一海軍區鎮守府ヲ相摸國三浦郡横須賀ニ置キ第二海軍區鎮守府ヲ安藝國

安藝郡吳ニ置キ第三海軍區鎮守府ヲ肥前國東彼杵郡佐世保ニ置キ第四海軍區鎮守

府ヲ丹後國加佐郡舞鶴ニ置ク第五海軍區鎮守府ノ位置ハ別ニ之ヲ定ム
第五條 鎮守府ハ出師ノ準備軍港要港ノ防禦管海ノ警備軍艦ノ製造修理兵員ノ徵募訓練ヲ掌ル所トス

第六條 鎮守府ニ司令長官一人ヲ置キ海軍中將ヲ以テ之ニ補シ

天皇ニ直隸シ所屬ノ軍艦軍隊ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條 司令長官ハ軍港司令官造船部長兵器部長主計部長建築部長鎮守府衛生會議議長鎮守府會計監督部長ヲ直轄シ又軍法會議ヲ管轄ス

第八條 司令長官ハ部下ノ艦船軍隊ヲ檢閲シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ奏上スヘシ

第九條 司令長官ハ軍港内ニ在ル部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲揚シ艦船ヲ指揮ス但場合ニ依リテハ陸上ニ其旗章ヲ掲揚スルコトヲ得

第十條 司令長官ハ軍港内一般ニ關スルコトニ於テハ他管ノ軍艦ヲ指揮スヘシ又戰時事變ニ際シテハ軍港内ニ在ル他管ノ軍艦兵員ヲ以テ軍港ノ守備ニ供スルコトヲ得

第十一條 司令長官ハ其部下ノ艦船ヲ管区内ニ派遣スルコトヲ得又練習ノ爲メニハ

五日以内ノ日數ヲ以テ軍隊ヲ陸路二十里以内ニ派遣スルコトヲ得

第十二條 司令長官ハ府縣知事ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ若其事急激危險ニシテ知事ヨリ請求ノ暇ナキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第十三條 司令長官ハ疾疫其他例外ノ場合ニ方リ一時部下ノ官員ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 司令長官ハ部下ノ兵員ヲ以テ衛兵ヲ編制シ軍港内ニ於テ海軍部内ニ對シ司法警察行政警察ヲ行フコトヲ得

衛兵ニハ司令一人副司令一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補ス

第十五條 司令長官ハ部下ノ職員事故アル時ハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十六條 司令長官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長 一人 大佐

參謀 二人 少佐一人 大尉一人

秘書 二人 大尉一人 大主計一人

司令長官傳令使 一人 大尉

第十七條 參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ其機務ニ參シ命令ノ普及並ニ其實施ヲ監視スルヲ以テ任トス

第十八條 參謀長ハ沿岸望樓ノ事務ヲ統理シ參謀秘書傳令使測器主管文庫主管ヲ指揮監督ス

第十九條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ出師ノ準備軍港要港ノ防禦小演習ノ計畫艦船軍隊ノ檢閲ニ關スル事ヲ掌ル

第二十條 秘書ハ參謀長ノ命ヲ受ケ人事及各部ニ屬セサル庶務ヲ掌リ又軍政會議ノ事務ヲ掌理ス

第二十一條 司令長官傳令使ハ常ニ長官ニ隨從シ命令傳達ヲ掌リ臨時參謀長ノ命ヲ受ケ參謀又ハ秘書ノ事務ヲ助ク

第二十二條 鎮守府ニ測器主管一人ヲ置キ少佐若クハ大尉ヲ以テ之ニ補シ參謀長ニ隸シ測器及航海ニ關スル圖書ノ準備供給氣象ノ觀測ヲ掌ラシム

第二十三條 鎮守府ニ文庫主管一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ參謀長ニ隸シ圖書ノ保管供給ヲ掌ラシム

第二十四條 鎮守府ニ軍港司令官一人ヲ置キ少將或ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ司令長官ノ命ヲ受ケ軍港ニ在ル鎮守府艦船海兵團及水雷隊ヲ指揮シ軍港ノ守備ヲ掌リ士卒

ノ教育訓練ヲ監督セシム

第二十五條 軍港司令官ハ豫備艦長知港事副知港事ヲ指揮監督ス

第二十六條 軍港司令官ハ軍港ノ守備ニ關シ陸軍司令官ト共力ヲ要スルコトアルトキハ協謀ノ責ニ任ス

第二十七條 軍港司令官ハ鎮守府司令長官事故アルトキ之カ代理ヲ爲ス

第二十八條 軍港司令官ニ司令官副官二人司令官傳令使一人ヲ屬シ副官ハ少佐或ハ大尉傳令使ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ケ服務セシム

第二十九條 軍港ニ豫備艦長豫備艦機關長各一人ヲ置キ豫備艦長ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ軍港司令官ニ隸シ所屬ノ豫備艦ヲ統轄セシム

豫備艦機關長ハ機關監ヲ以テ之ニ補シ豫備艦長ノ命ヲ受ケ服務セシム

豫備艦長ニ艦長副官一人ヲ屬シ大佐ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ケ服務セシム

第三十條 軍港ニ知港事副知港事各一人ヲ置キ知港事ハ佐官ヲ以テ之ニ補シ軍港司令官ニ隸シ所屬ノ軍船ヲ統轄シ港則シ維持シ海運海標及救難防火等ノ事ヲ掌ラシム

副知港事ハ大尉ヲ以テ之ニ補シ知港事ヲ助ケ知港事故アルトキ之カ代理ヲ爲ス

第三十一條 要港ニハ其形勢ニ因リ司令一人ヲ置キ佐官ヲ以テ之ニ補シ司令長官ノ

命ヲ受ケ要港ノ守備ヲ掌ラシム

要港ニ要港司令官ヲ置クトキハ水雷隊司令ハ之ニ隸スルモノトス

第三十二條 要港司令官ニ副官一人ヲ屬シ大尉ヲ以テ之ニ補シ其命ヲ受ケ服務セシム

第三十三條 要港ニハ其形勢ニ因リ知港事一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補シ要港司令官ニ隸シ港務及海運ノ事ヲ掌ラシム

第三十四條 鎮守府ニ左ノ各部ヲ置ク

造船部

兵器部

主計部

建築部

第三十五條 造船部ハ艦船ヲ製造修理シ船具及船體機關ニ屬スル需用物品ヲ準備供給スル所トシ計畫科製造科ヲ置キ其事業ヲ分擔セシム

第三十六條 兵器部ハ砲銃水雷彈藥火具其他兵器及之ニ屬スル需用物品ヲ製造修理準備供給スル所トス

第三十七條 主計部ハ會計經理、物品ノ購買賣却、被服糧食及各部ニ屬セサル需用物

品ノ準備供給病院監獄ノ事務及陸運ヲ掌ル所トシ出納課材料課工費課衣糧課病院
 課監獄課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
 第三十八條 建築部ハ船渠、電線、浚港、造家其他水陸ノ工事土地家屋ノ管理及軍港
 内地勢變更ノ監視ヲ掌ル所トス
 第三十九條 各部ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

- 造船部
 - 部長 一人 機技總監或ハ技監
 - 計畫科長 一人 技監
 - 計畫科主幹 若干人 技監或ハ技士
 - 製造科長 一人 技監
 - 製造科主幹 若干人 機技部上長官士官
 - 倉庫主管 若干人 准士官或ハ判任官
 - 兵器部
 - 部長 一人 佐官
 - 主幹 若干人 大尉或ハ機技部上長官
 - 倉庫主管 若干人 准士官或ハ判任官

主計部

- 部長 一人 主計監
- 課長 各一人 主計少監或ハ大主計
- 倉庫主管 若干人 准士官或ハ判任官
- 建築部
 - 部長 一人 技師
 - 主幹 若干人 技師

第四十條 部長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ部事ヲ整理ス
 第四十一條 科長課長兵器部建築部ノ主幹及造船部兵器部主計部ノ倉庫主管ハ部長
 ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ヲ整理ス
 第四十二條 造船部ノ主幹ハ科長ノ命ヲ受ケ分擔ノ事務ヲ整理ス
 第四十三條 鎮守府ニ軍政會議ヲ置キ司令長官ヲ以テ議長トシ左ノ職員ヲ以テ議員
 トス

- 軍港司令官
- 造船部長
- 兵器部長

主計部長
建築部長

司令長官ニ於テ議事ノ事項ニ依リ必要ト認ムルトキハ海兵團長鎮守府衛生會議議長ヲ以テ臨時議員ト爲スコトヲ得
議事ノ事項會計ニ關スルトキハ鎮守府會計監督部長ヲシテ議席ニ列シ意見ヲ陳述セシムヘシ

第四十四條 軍政會議ハ各部ニ關涉スル事件ノ處分法ヲ協議シ鎮守府ノ經理事務ヲ踈通スルヲ以テ目的トス

第四十五條 此條例ニ掲グル外屬員トシテ判任官若干人ヲ置ク

第四十六條 各鎮守府ノ定員ハ其現況ニ應ジ此條例ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ムヘシ

附則

第四十七條 舞鶴鎮守府開應マテ其海軍區中越後以東ハ橫須賀鎮守府ニ越中以西ハ吳鎮守府ニ管セシメ第五海軍區鎮守府ヲ置クマテ其海軍區ハ橫須賀鎮守府ニ管セシム

●鎮守府條例中改正

明治二十三年三月
勅令第六十三號

朕鎮守府條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
鎮守府條例中左ノ通改正ス

第三十五條 造船部ハ艦船及其屬具ヲ製造修理シ艦船ヲ機裝スル所トシ計畫科製造科ヲ置キ其事業ヲ分擔セシム

第三十六條 兵器部ハ砲銃、水雷、彈藥、火具其他兵器ヲ製造修理備裝シ及之ヲ準備供給スル所トス

第三十七條 主計部ハ會計經理、物品ノ購買賣却、被服、糧食、及艦營需品測器圖書ノ準備供給、造船材料ノ貯蓄出納、病院監獄ノ事務及陸運ヲ掌ル所トシ出納課、材料課、衣糧課、病院課、監獄課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
第三十九條 各部ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

造船部

部長	一人	機技總監或ハ技監
計畫科長	一人	技監
計畫科主幹	若干人	技監或ハ技士
製造科長	一人	技監
製造科主幹	若干人	機技部上長官士官

兵器部

部長 一人 佐官
 主幹 若干人 少佐大尉或ハ機技部上長官士官
 武庫主管 一人 少佐或ハ大尉

主計部

部長 一人 主計監
 課長 各一人 主計少監或ハ大主計
 倉庫主管 若干人 主計少監或ハ大主計

建築部

部長 一人 技師
 主幹 若干人 技師

第四十一條 科長武庫主管課長ハ部長ノ命ヲ承ケ分擔ノ事務ヲ整理ス

第四十二條 主幹倉庫主管ハ部長若クハ科課長ノ命ヲ承ケ分擔ノ事務ヲ整理ス

●鎮守府條例第十四條第四十六條改正

明治二十三年十月
 勅令第二百三十六號

朕鎮守府條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府條例第十四條第四十六條ヲ改正スルコト左ノ如シ

第十四條 司令長官ハ部下海兵團ノ兵員ヲ以テ衛兵ヲ編制シ軍港内ニ於テ海軍部内

ニ對シ軍事警察ヲ行フコトヲ得

衛兵ニハ司令一人副司令一人ヲ置キ大尉ヲ以テ之ニ補ス

第四十六條 各鎮守府ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

●第五海軍區鎮守府位置設定

明治二十三年二月
 勅令第七號

朕第五海軍區鎮守府位置設定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第五海軍區鎮守府ノ位置ヲ北海道擔振國室蘭郡室蘭港ト定ム

●鎮守府艦隊司令長官旗艦增加定員職別表

明治二十三年十一月
 海軍省達第三百九十二號

鎮守府艦隊司令長官旗艦增加定員職別表左ノ通定ム

鎮守府艦隊司令長官旗艦增加定員職別表

一 旗長司艦 隻艦官令隊	旗長司守保佐 艦官令府鎮世	旗長司守吳 艦官令府鎮	旗長司守賀橫 艦官令府鎮須
二一三二一一軍 等等等 樂軍軍樂 主主兵 軍樂樂	二一三二一一軍 等等等 軍軍軍樂 主主兵 樂樂樂	二一三二一一軍 等等等 軍軍軍樂 主主兵 樂樂樂	二一三二一一軍 等等等 軍軍軍樂 主主兵 樂樂樂
帳帳手手手曹師	帳帳手手手曹師	帳帳手手手曹師	帳帳手手手曹師
一一五六六一	一一五六六一	一一五六六一	一一五六六一
一二一三二一 等等等 軍軍 厨水水水 樂樂	一二一三二一 等等等 軍軍 厨水水水 樂樂	一二一三二一 等等等 軍軍 厨水水水 樂樂	一二一三二一 等等等 軍軍 厨水水水 樂樂
夫生生兵兵兵	夫生生兵兵兵	夫生生兵兵兵	夫生生兵兵兵
一五四六十二	一五四六十二	一五四六十二	一五四六十二

鎮守府司令長官乘艦ノトキハ本表中軍樂員ハ海兵團ノ定員ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

●海兵團條例

明治二十二年四月 勅令第四十六號

朕海兵團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海兵團條例

第一條 海兵團ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ軍艦乘員ノ補充及軍港守禦ノ兵ニ充ツヘキ現役下士卒ヲ教育訓練シ新兵ヲ徵募シ豫備兵後備兵ヲ招集スル所トス

海兵團ハ所屬鎮守府ノ名ヲ冠シテ某海兵團ト稱ス

第二條 乘艦ヲ免シタル下士卒ハ海兵團ニ入營セシムルモノトス

第三條 海兵團ノ下士卒ハ分テ若干分隊トシ其機關部ニ屬スルモノハ別ニ一部若クハ若干部ニ分ツ

第四條 海兵團ノ職員ハ左ノ如シ

- 團長 一人 大佐
- 副長 一人 少佐
- 分隊長 若干人 大尉
- 徵募官 二人 大尉

機關長	一人	機關少監
機關士	若干人	大機關士或ハ少機關士
軍醫長	一人	軍醫少監
軍醫	若干人	大軍醫或ハ少軍醫
主計長	一人	主計少監
主計	若干人	大主計或ハ少主計

第五條 團長ハ軍港司令官ニ隸シ部下ヲ董督シ軍紀風紀ヲ維持シ團中ノ事務ヲ總理シ下士卒ヲ教育訓練スルヲ任トス

第六條 團長ハ徵募ノ事務ニ於テハ直ニ司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條 副長ハ團長ヲ補佐シ團長ノ命令ヲ執行シ團長ノ定則ヲ維持シ團長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第八條 分隊長ハ其隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ掌ル

第九條 徵募官ハ兵籍ヲ主管シ徵兵募兵ニ關スル事務及豫備兵後備兵ノ招集簡閱點呼ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 機關長ハ其部下ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ任トシ又附屬艦船ノ機關ニ係ル事ヲ掌ル

第十一條 機關士ハ機關長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十二條 軍醫長ハ團中ノ醫務衛生ヲ掌ル

第十三條 軍醫ハ軍醫長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十四條 主計長ハ會計給與ヲ掌ル

第十五條 主計ハ主計長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十六條 第四條ニ掲クル職員ノ外定員トシテ准士官下士卒若干人ヲ置ク

●海兵團條例中改正追加 明治二十三年二月 勅令第十六號

朕海兵團條例中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海兵團條例中左ノ通改正追加ス

第一條 海兵團ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ艦隊其他各部定員ノ補缺ニ充ツヘキ現役下士卒ヲ教育訓練シ軍港内ノ守衛ヲ要スル場所ニ守兵ヲ派出シ新兵ヲ徵募シ豫備兵後備兵ヲ招集スル所トス

海兵團ハ所屬鎮守府ノ名ヲ冠シテ某海兵團ト稱ス

第二條中「乗艦」ヲ「艦船隊艦ノ勤務」ト改ム

第三條中「一部若シハ」ノ五字ヲ刪除ス

第四條 海兵團ノ職員ハ左ノ如シ

- 團長 一人 大佐
- 副長 一人 少佐
- 分隊長 若干人 大尉
- 徵募官 二人 大尉
- 分隊士 若干人 少尉
- 機關長 一人 機關少監
- 機關士 若干人
- 軍醫長 一人 軍醫少監
- 軍醫 若干人
- 主計長 一人 主計少監
- 主計 若干人

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

分隊士ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事ス

第十一條中「機關士ハ」ノ下ニ「機關部員ノ部長ト爲リ」ノ十字ヲ加フ
第十四條中「給與」ノ下ニ「及庶務」ノ三字ヲ加フ

●水雷隊條例

明治二十二年四月
勅令第四十七號

朕水雷隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水雷隊條例

- 第一條 軍港要港ニ漸次水雷隊ヲ置ク
- 第二條 水雷隊ハ海軍區ノ區域ニ依リ各鎮守府ヲシテ管轄セシム
- 第三條 水雷隊ニ司令ヲ置ク佐官ヲ以テ之ニ補ス
- 第四條 軍港ノ水雷隊司令ハ軍港司令官ニ隸シ要港ノ水雷隊司令ハ直ニ其所管鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ董督訓練シ水雷水雷艇其他ノ要具ヲ整備シ近海ノ水路ヲ熟知シ軍港要港ノ守備ニ任ス
- 第五條 水雷隊ハ佐尉官機關士軍醫主計准士官下士卒若干名ヲ以テ編制ス其定員ハ軍港要港ノ形勢ニ應ジテ別ニ之ヲ定ム

●水雷隊配備表

明治二十三年八月
勅令第百七十九號

朕水雷隊配備ノ件ノ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水雷隊配備表

所管鎮守府	防禦管區	數	設部	攻擊部	名	稱	位	區
橫須賀	東京灣口及橫須賀軍港二	隊	一等水雷艇十三艘	橫須賀水雷隊	橫須賀軍港内長浦			
吳	吳軍港		一等水雷艇四艘	吳水雷隊	吳			
馬關	馬關海峽			馬關水雷隊	未定			
佐世保	佐世保軍港一	隊	一等水雷艇五艘	佐世保水雷隊	佐世保			
舞鶴	對馬國竹敷近海二	隊	一等水雷艇二艘	對馬水雷隊	對馬國竹敷			
室蘭								
備考	防禦管區及隊數艇數ハ漸次増加スルモノトス							

●水雷術練習艦條例改正

明治二十二年十二月 勅令第三百三十二號

朕水雷術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水雷術練習艦條例

- 第一條 水雷術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官機關士上等兵曹ニ水雷術ヲ教授シ掌水雷兵ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育スル所トス
- 第二條 水雷術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ水雷術練習生ト稱ス
- 第三條 水雷術練習生ハ高等水兵練習艦卒業者及掌砲兵ヨリ採用ス
- 第三條 水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ハ員外乘員トス
- 水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム
- 第四條 水雷術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク
教官 大尉 本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス
- 第五條 艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲クルモノ、外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル
- 第六條 副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲クルモノ、外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル
- 第七條 教官ハ水雷術教授及試験ノ事ヲ掌ル

●水雷術練習艦規則

明治二十三年一月 海軍省達第二十號

水雷術練習艦規則左ノ通定ム

水雷術練習艦規則

- 第一條 水雷術練習艦ニ於テハ水雷術練習艦條例第二條ニ掲クル練習生ノ外掌水雷兵中水雷術教員ト爲スヘキ者掌水雷兵又ハ掌水雷兵タリシ者ノ中復習ヲ志願スル者ヲ訓練ス
- 第二條 水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷証狀ヲ有スル兵曹一等水兵ニシテ水雷術教員タルニ堪フヘキ者ヨリ撰拔ス
- 第三條 復習志願ノ者コハ掌水雷証狀有効滿期前六箇月以内又ハ有効滿期一箇年以内ニ於テ願出シム可シ
- 第四條 掌砲兵コシテ掌水雷兵タランコトヲ志願スル者ハ掌砲証狀有効滿期後一箇年以内ニ於テ願出シム可シ
- 第五條 練習生ノ人員ハ須要ニ應ジ毎年鎮守府コトニ之ヲ定ム
- 第六條 練習生ト爲スヘキ者復習者ノ人員モ亦前項ニ同シ
- 第七條 練習生水雷術教員ト爲スヘキ者及復習者採用ノ達アリタルトキハ艦隊學校及各廳長ハ第二條第三條第四條ニ相當スル者ヲ調査シ其官職姓名ヲ水雷術練習艦長ニ通知ス可シ

●水雷術練習艦規則中加除改正

海軍省達第一三三號
明治二十三年十月
水雷術練習艦規則
中左ノ通り改正ス
第四條掌砲兵ノ下ニ「タリシ者」ノ四字ヲ加フ、第五條第二項中「復習

第七條 水雷術練習艦長ハ前條ノ人名ヲ調査シ各鎮守府コトニ區別シ更ニ練習生ト

水雷術教員ト爲スヘキ者ト復習者ヲ區別シ官職姓名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ横須賀軍港司令官ヲ經由シ横須賀鎮守府司令長官ニ進達ス可シ

第八條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各其司令長官ニ送附ス可シ

鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ應ジ取捨ヲ加ヘ艦隊學校及各廳長ニ通達シ練習生ト爲ルヘキ者ハ練習生ヲ命シ期日以内ニ乗艦セシム可シ

第九條 水雷術教員ト爲スヘキ者又ハ志願者所定ノ人員ニ超過スルトキハ一等證書又ハ一等證書ヲ有スル者ヨリ證書同シキトキハ等級ノ上ナル者ヨリ順次ニ練習生ヲ命ス可シ

第十條 水雷術練習艦ノ教程ハ分テ甲種教程及乙種教程トス

第十一條 甲種教程ハ大學校卒業者ヲシテ履行セシムルモノトス

大學校卒業者ニアラサル士官及ヒ水雷主機ト爲スヘキ機關士ヲ練習セシムルトキハ練習艦長適宜ノカ教程ヲ定ム可シ

第十二條 乙種教程ハ上等兵曹及掌水雷兵ト爲スヘキ練習生ヲシテ履行セシムルモ

者ノ三字ヲ刪除スルハ
術練習艦ノ教程ハ分テ甲種教程及乙種教程トス
長及教員乙種教程トス
教員ハ別ニ定ム
第十二條ニ定ム
爲スヘキ者ト復習者ヲ區別シ官職姓名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ横須賀軍港司令官ヲ經由シ横須賀鎮守府司令長官ニ進達ス可シ
第八條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各其司令長官ニ送附ス可シ
鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ應ジ取捨ヲ加ヘ艦隊學校及各廳長ニ通達シ練習生ト爲ルヘキ者ハ練習生ヲ命シ期日以内ニ乗艦セシム可シ
第九條 水雷術教員ト爲スヘキ者又ハ志願者所定ノ人員ニ超過スルトキハ一等證書又ハ一等證書ヲ有スル者ヨリ證書同シキトキハ等級ノ上ナル者ヨリ順次ニ練習生ヲ命ス可シ
第十條 水雷術練習艦ノ教程ハ分テ甲種教程及乙種教程トス
第十一條 甲種教程ハ大學校卒業者ヲシテ履行セシムルモノトス
大學校卒業者ニアラサル士官及ヒ水雷主機ト爲スヘキ機關士ヲ練習セシムルトキハ練習艦長適宜ノカ教程ヲ定ム可シ
第十二條 乙種教程ハ上等兵曹及掌水雷兵ト爲スヘキ練習生ヲシテ履行セシムルモ

ノトス

水雷術教員ト爲スヘキ掌水雷兵ニハ乙種教程ニ就キ五十日間復習ヲ志願スル者ニハ六十日間須要ノ教科ヲ練習セシムルモノトス

第十三條 試験ハ分テ小試験大試験ノ二トス

第十四條 小試験ハ一教科ノ終リニ之ヲ行ヒ大試験ハ全教科ノ終リニ之ヲ行フ

第十五條 小試験及大試験ニ於ケル及第點數ハ各科全點數十分ノ四以上ヲ得共點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上トス

大試験ノ成績ハ全科小試験平均ノ得點ト大試験得點トヲ合算シテ之ヲ定ム

第十六條 大試験ニ及第シタル尉官機關士上等兵曹ニハ卒業證書ヲ授與シ兵曹永兵

ニハ掌水雷證狀ヲ授與ス

第十七條 卒業證書掌水雷證狀ハ左項ノ一ニ依リ試験ノ成績ニ應シ一等若クハ二等

トス

一、平均點數十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一等トス

二、平均點數十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ二等トス

第十八條 水雷術教員ト爲スヘキ兵曹水兵ニハ教科ヲ練習セシメタル後水雷術教員適任證書ヲ授與ス

第十九條 大試験ニ落第シタル者ハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ再試験ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等卒業證書又ハ二等掌水雷證狀ヲ授與ス

第二十條 大試験若クハ其再試験ニ落第シタル者及學科履行中怠慢又ハ不行狀ニシテ卒業ノ目途ナキ者横須賀鎮守府海兵團在籍ナルトキハ艦海軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免シ他團在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免ス可シ

第二十一條 艦長ハ練習員ノ教育ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ副長及教官ヲ會同シ會議ヲ開キ艦長議長トナリ審議決定ス可シ

第二十二條 艦長ハ大試験成績表及品行表ニ意見ヲ附シ軍港司令官ニ出ス可シ

第二十三條 艦長ハ常ニ水雷術ノ進歩ニ注目シ教務上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ軍港司令官ニ具申ス可シ

第二十四條 副長ハ教務ニ係ル書類ヲ審査シ之ヲ艦長ニ出ス可シ

第二十五條 先任教官ハ教授ニ關スル書類及器具ヲ整頓ス可シ

第二十六條 教官ハ試験問題及成績表品行表ヲ調製シ副長ヲ經テ艦長ニ出ス可シ

第二十七條 教官ハ教務上ニ意見アルトキハ副長ヲ經テ艦長ニ具申ス可シ

第二十八條 教官ハ練習諸員ノ勤怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス
 第二十九條 教員ハ副長及教官ノ命ヲ受ケ教授及試験ニ從事シ分隊長ニ屬シ隊務ヲ掌ル

第三十條 水雷術練習艦定員中本則ニ掲記セサル者ノ職務ハ軍艦職員條例ニ依ル

●高等水兵練習艦條例

明治二十二年十二月
 勅令第百三十號

朕運用術練習艦條例ヲ廢シ高等水兵練習艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等水兵練習艦條例

第一條 高等水兵練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ兵曹ト爲ルヘキ水兵ヲ教育スル所トス

第二條 高等水兵練習艦ニ於テ教育スル水兵ヲ高等水兵練習艦練習生ト稱ス
 練習生ハ員外乗員トス

第三條 高等水兵練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲グル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク
 教官 大尉 本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス

第四條 艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲グルモノ、外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル

第五條 副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲グルモノ、外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル

●高等水兵練習艦規則

明治二十二年十二月
 海軍省達第四百八十號

高等水兵練習艦規則左ノ通定ム

高等水兵練習艦規則

第一條 高等水兵練習艦練習生ニ選拔スヘキ者ハ三等水兵以上ノ水兵ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ

一、志操確實品行善良兵曹タルコト堪フヘキ者

二、一箇年以上航海艦ニ乗組タル者

三、處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

四、試験ニ合格ノ者

第二條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ須要ニ應ジ毎年鎮守府コトニ定ム

第三條 練習生採用ノ達アリタルトキハ艦團隊校及各廳長ハ第一條第四項ノ外各項

ニ適合スル者ヲ選抜シ其職姓名ヲ高等水兵練習艦長ニ通知スヘシ

第四條 高等水兵練習艦長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り艦隊校及各
艦長ニ送附ス各長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ高等水兵練習艦長ニ送附スヘシ

試験ハ總テ筆記ヲ以テ應答セシム

第五條 試験ハ作文算術ノ二科トス

作文ハ通俗文算術ハ四則ヲ程度トス

第六條 高等水兵練習艦長ハ各鎮守府コトニ合格者ヲ區別シ成績ノ順序ヲ以テ職姓
名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ進達スヘシ

第七條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬
スルモノヲ各其司令長官ニ送附スヘシ

鎮守府司令長官ハ合格者ニ就キ取捨ヲ加ヘ艦隊校及各艦長チシテ練習生ヲ命ジ
期日以内ニ乗艦セシムヘシ

第八條 合格者ノ數所定ノ人員ニ超過スルトキハ試験成績ノ順序ニ依リ成績同シキ
者ハ等級ノ順序ニ依リ練習生ヲ命スルモノトス

第九條 練習艦教則ハ別ニ定ム

第十條 練習生卒業試験ニ及第シタルトキハ兵曹適任證書ヲ授與ス

兵曹適任證書ハ一等若クハ二等ノ二種トス

第十一條 大試験若クハ其再試験ニ落第シタル練習生及學科履行中怠慢又ハ不行狀
ニシテ卒業ノ前途ナキ者横須賀鎮守府海兵團在籍ナルトキハ艦長軍港司令官ヲ經

由シ司令長官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免シ他團在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送
附シ之ヲ該團長ニ通知スヘシ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ノ認
可ヲ得テ練習生ヲ免スヘシ

第十二條 卒業シタル練習生中砲兵タルニ適當ノ者ハ砲術練習生ヲ命ジ砲術練習
艦ニ轉乘セシメ掌水雷兵タルニ適當ノ者ハ水雷術練習生ヲ命ジ水雷術練習艦ニ轉

乘セシムヘシ
第十三條 卒業シタル練習生ヲ砲術練習艦又ハ水雷術練習艦ニ轉乘セシメタルトキ
ハ高等水兵練習艦長之ヲ各鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

第十四條 艦長ハ練習生ノ教育ニ關シ詮議ヲ要スルトキハ副長及教官ヲ會同シ會議
ヲ開キ議長トナリ審議決定スヘシ

第十五條 艦長ハ常ニ教務上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ軍港司令官ニ具申
スヘシ

第十六條 艦長ハ大試験成績表及品行表ニ意見ヲ附シ軍港司令官ニ出スヘシ

第十七條 副長ハ教務ニ係ル書類ヲ審査シ之ヲ艦長ニ出スヘシ

第十八條 先任教官ハ教授ニ係ル書類ヲ整頓スヘシ

第十九條 教官ハ試験問題成績表及品行表ヲ製シ副長ヲ經テ艦長ニ出スヘシ

第二十條 教官ハ教務上ニ付意見アルトキハ副長ヲ經テ艦長ニ具中スヘシ

第二十一條 教官ハ練習生ノ勤怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス

第二十二條 教員ハ副長及教官ノ命ヲ受テ教授及試験ニ從事シ分隊長ニ屬シ隊務ヲ掌ル

第二十三條 高等水兵練習艦定員中本則ニ於テ掲記セサル者ノ職務ハ軍艦職員條例ニ依ル

●高等水兵練習艦規則中改正追加

明治二十三年九月
海軍省達第三百十八號

高等水兵練習艦規則中左ノ通改正追加ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

一等水兵ニシテ高等水兵練習艦教員ヲラソコトヲ志願スル者前諸項ニ適合シタルトキハ練習生ニ選拔スルコトヲ得但該志願者已ニ兵曹適任證書ヲ有シタル者ナルトキハ試験ヲ要セス

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條乙 教員ヲ志願スル者ノ試験ハ前條ニ依ラス運用術、作文、算術ノ三科トス運用術ハ諸圓材上下及出入法、諸帆附脫及交換法作文ハ通俗文、算術ハ四則及分數ヲ程度トス

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

教員志願者合格者ノ數所定ノ人員ニ超過スルトキハ兵曹適任證書ヲ有スル者ヲ採用シ尙ホ超過スルトキハ前項ニ依ル

第十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

教員ト爲スヘキ者卒業試験ニ及第シタルトキハ高等水兵練習艦教員適任證書ヲ授與ス但兵曹適任證書ヲ有セサル者ニハ兵曹適任證書ヲ併セテ授與ス

第十一條中「怠慢又ハ不行狀ニシテ卒業ノ目途ナキ者」「ヲ傷痰疾病若クハ怠慢ニシテ卒業ノ目途ナキ者又ハ處罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ者」ト改ム

第十二條中「水雷術練習艦ニ轉乘セシ」ノ下ニ「メ掌帆科適當ノ者ハ本籍海兵團ニ入營セシ」ノ十九字ヲ加フ

●砲術練習艦條例

明治二十二年十二月
勅令第三百二十一號

朕砲術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲術練習艦條例

- 第一條 砲術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官上等兵曹商船學校生徒ニ砲術ヲ教授シ掌砲兵ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育スル所トス
- 第二條 砲術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ砲術練習生ト稱ス
- 第三條 砲術練習生ハ高等水兵練習艦卒業者及掌水雷兵ヨリ採用ス
- 第四條 砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム
- 第五條 砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ハ員外乘員トス
- 第六條 砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム
- 第七條 砲術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

砲術練習艦規則

明治二十三年一月 海軍省達第五號

●砲術練習艦規則中加除
 海軍省達第三百六十號
 砲術練習艦規則中
 左ノ通改正ス
 四條ニ掌水雷兵ノ
 下ニ「リシ者」ノ
 四條ニ加フ、第五
 條第二項中「復習
 者」ノ三字ヲ刪除
 ス、第三項中「復
 習者」ノ三字ヲ加
 フ、復習者ニシテ
 復習者ニシテ復
 習者ニシテ復習
 者ニシテ復習者
 若千日間緊要ノ教
 科ヲ履行セシム

砲術練習艦規則左ノ通定ム

砲術練習艦規則

- 第一條 砲術練習艦ニ於テハ砲術練習艦條例第二條ニ掲クル練習生ノ外掌砲兵中砲術教員ト爲スヘキ者及掌砲兵又ハ掌砲兵タリシ者ノ中復習ヲ志願スル者ヲ訓練ス
- 第二條 砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲証狀ヲ有スル兵曹一等水兵中ヨリ砲術教員タルニ堪フヘキ者ヲ選拔ス
- 第三條 復習志願者ニハ掌砲証狀有効満期前六箇月以内又ハ有効満期後一箇年以内ニ於テ願出シム可シ
- 第四條 掌水雷兵ニシテ掌砲兵タランコトヲ志願スル者ハ掌水雷証狀有効満期後一箇年以内ニ於テ願出シム可シ
- 第五條 練習生ノ人員ハ須要ニ應シ毎年鎮守府コトニ定ム
- 第六條 砲術教員ト爲スヘキ者復習者ノ人員モ亦前項ニ同シ
- 第七條 練習生砲術教員ト爲スヘキ者及復習者採用ノ達アリタルトキハ艦隊學校及各廳長ハ第二條第三條第四條ニ相當スル者ヲ調査シ其官職姓名ヲ砲術練習艦長ニ通知ス可シ
- 第七條 砲術練習艦長ハ前條ノ人名ヲ調査シ各鎮守府コトニ區別シ更ニ練習生ト砲

習教員ト爲スヘキ者ト復習者ヲ區別シ官職姓名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ進達ス可シ

第八條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各其司令長官ニ送附ス可シ

鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ應シ取捨ヲ加ヘ艦隊校及各廳長ニ通達シ習練生ト爲ルヘキ者ニハ練習ヲ命ジ期日以内ニ乘艦セシム可シ

第九條 砲術教員ト爲スヘキ者又ハ志願者所定ノ人員ニ超過スルトキハ一等證書又ハ一等證書ヲ有スル者ヨリ證書同シキトキハ等級ノ上ナル十ヨリ順次ニ練習生ヲ命ス可シ

第十條 砲術練習艦ノ教程ハ分テ甲種長教程甲種短教程乙種長教程乙種短教程及教員教程トス教程ハ別ニ定ム

第十一條 甲種教程ハ大學校卒業者ヲシテ履行セシムルモノトス
大學校卒業者ニアラサル士官及商船學校生徒ヲ練習セシムルトキ練習艦長適宜之カ教程ヲ定ム可シ

第十二條 乙種長教程ハ掌砲兵ト爲スヘキ練習生ヲシテ履行セシメ乙種短教程ハ上等兵曹掌砲兵又ハ掌砲兵ヲリシ者ノ復習者ヲシテ履行セシメ教員教程ハ砲術教員

●砲術練習艦
規則中追加
明治二十三年五月
海軍省達第二百
二十四號
砲術練習艦規則中
第十六條大試驗ニ
ノ下ニ「及甲種」ノ
三字ヲ加ヘ第二十
三條「及第シ」ノ下
ニ「更ニ」ノ一字ヲ
加ヘ第二十四條第
二項「コトヲ得」ノ
下ニ「而シテ」及第
シタル者ニハ二等
證書ヲ授與ス」ノ
九字ヲ加フ

ト爲スヘキ掌砲兵ヲシテ履行セシムルモノトス

第十三條 試驗ハ分テ小試験大試験ノ二トス

第十四條 小試験ハ一教科ノ終リニ之ヲ行ヒ大試験ハ全教科ノ終リニ之ヲ行フ

第十五條 試験科目ハ分テ甲乙ノ二種トス

甲種ハ銃隊掃盤砲火工及教科中特ニ選定スル他ノ教科ニシテ大試験ニ於テノミ之ヲ行フ

乙種ハ四輪側砲旋回砲野砲機砲拳銃舶刀舶鎗ニシテ小試験ニ於テノミ之ヲ行フ

第十六條 大試験小試験ニ於ケル及第點數ハ失點六十五以下トス

第十七條 大試験ノ成績ハ左ノ別ニ依リ算定スルモノトス

一 甲種小試験ノ失點ハ大試験ノ失點ニ加減ス

二 乙種小試験ノ失點基數五十以上ニ至レハ其超過セル點數ハ甲種小試験ニ加減ス

第十八條 艦砲射撃ハ教程ニ掲クル外常備艦々砲射撃概則及小銃射法教程ニ依ルモノトス

第十九條 艦砲射撃ニ於テハ其得點數ニ應シ成績ヲ左ノ三等ニ分ツ

一 平均得點數八點以上ヲ得タル者ヲ一等トス

- 二 平均得點數六點以上ヲ得タル者ヲ二等トス
 - 三 平均得點數四點以上ヲ得タル者ヲ三等トス
- 第二十條 大試験ニ及第シタル尉官上等官曹ニハ卒業證書ヲ授與シ大試験及射撃ニ及第シタル兵曹水兵ニハ掌砲證書ヲ授與ス
- 第二十一條 卒業證書ハ左項ノ一ニ依リ試験ノ成績ニ應シ一等若クハ二等トス
- 一 失點五十以下ナル者ヲ一等トス
 - 二 失點六十五以下ナル者ヲ二等トス
- 第二十二條 掌砲證書ハ左項ノ一ニ依リ試験及射撃ノ成績ニ應シ一等若クハ二等トス
- 一 失點五十以下及射撃一等又ハ二等ナル者ヲ一等トス
 - 二 失點六十五以下及射撃三等以上ナル者ヲ二等トス
- 第二十三條 砲術教員ト爲スヘキ兵曹水兵試験ニ及第シタルトキハ砲術教員適任證書ヲ授與ス
- 第二十四條 大試験ニ落第シタル者ハ若干日間落第シタル科目ヲ復習セシメ再試験ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等卒業證書又ハ二等掌砲證書ヲ授與ス
- 射撃ニ於テ其成績第三等ニ達セサル者ハ再發射ヲ爲サシムルコトヲ得

- 第二十五條 大試験若クハ其再試験ニ落第シ又ハ射撃ノ再發射ニ落第シタル者及學科履行中怠慢又ハ不行狀ニシテ卒業ノ目途ナキ者横須賀鎮守府海兵團在籍ナルトキハ艦長軍港司令官ヲ經甲シ司令官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免シ他團在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令官ノ認可ヲ得テ練習生ヲ免ス可シ
- 第二十六條 艦長ハ練習員ノ教育ニ關シ詮議ヲ要スルトキハ副長及教官ヲ會同シ會議ヲ開キ艦長議長トナリ審議決定ス可シ
- 第二十七條 艦長ハ大試験成績表及品行表ニ意見ヲ附シ軍港司令官ニ出ス可シ
- 第二十八條 艦長ハ常ニ砲術ノ進歩ニ注目シ教務上ノ得失ヲ考察シ意見アルコトキハ軍港司令官ニ具申ス可シ
- 第二十九條 副長ハ教務ニ係ル書類ヲ審査シ之ヲ艦長ニ出ス可シ
- 第三十條 先任教官ハ教授ニ關スル書類及器具ヲ整頓ス可シ
- 第三十一條 教官ハ試験問題及成績表品行表ヲ調製シ副長ヲ經テ艦長ニ出ス可シ
- 第三十二條 教官ハ教務上ニ意見アルトキハ副長ヲ經テ艦長ニ具申ス可シ
- 第三十三條 教官ハ練習諸員ノ勤怠及行狀ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス
- 第三十四條 教員ハ副長及教官ノ命ヲ受ケ教授及試験ニ從事シ分隊長ニ屬シ隊務ヲ

掌ル

第三十五條 砲術練習艦定員中本則ニ於テ掲記セサル者ノ職務ハ軍艦職員條例ニ依ル

●海軍火藥工廠定員表

明治二十三年三月
海軍省達第四百十號

海軍火藥工廠定員左表ノ通改定ス

海軍火藥工廠定員表

廠長 佐官	科造製	科長 技監或ハ技士	一	技手	十一
	科査檢	科長 技監或ハ技士	一		屬
課計會	課長 主計少監或ハ大主計	一			
備考	屬ハ列任官三等以下トス				

●火藥工廠定員表中追加

明治二十三年五月
海軍省達第二百二十號

火藥工廠定員表中會計課ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

軍醫	大軍醫或ハ少軍醫	一	一等看病夫	一
----	----------	---	-------	---

●海軍火藥工廠處務細則改定

明治二十三年三月
海軍省達第四百一十一號

海軍火藥工廠處務細則左ノ通改定ス
海軍火藥工廠處務細則

第一章 職務及權限

第一條 廠長ハ此細則ニ掲クル各科課所掌事項外ニシテ臨時調査ヲ要スル事項アル時廠員ニ委員ヲ命スル事ヲ得

第二條 廠長事故アル時ハ特ニ代理ヲ命スル時ノ外先任科長其事務ヲ代理ス可シ

第三條 先任科長廠長ノ事務ヲ代理スル時ハ其指示ニ從ヒ委任セラレタル事務ヲ處理ス可シ但上申同等ハ廠長ノ名ヲ以テ發付スヘシ

第四條 製造科長ハ廠長ノ許可ヲ得テ成年工以下ノ職工及人夫ヲ雇役解雇スル事ヲ得

第五條 検査科長ハ検査試験ヲ爲スニ當リ分析室ヲ使用スル事ヲ得

第六條 會計課長ハ廠長ノ許可ヲ得テ定備人夫並ニ臨時職工人夫ヲ雇役解雇スル事

ヲ得

第七條 科課長ハ各其屬員ニ掛テ命スル事ヲ得

第八條 科課長ハ其主務ヲ執行スルニ當リ他科課ノ屬員及器具物品等ヲ要スル時ハ其科課長ニ協議シテ之ヲ使用スル事ヲ得

第九條 各科課ノ屬員ハ其長ノ命ヲ承ケ業務ニ服ス長事故アル時ハ先任屬員其代理ヲ爲スコトヲ得

第十條 各科掛長ハ其主管ノ工場倉庫及器具機械材料物品ヲ保管スルノ責ニ任ス

第十一條 製造科ニ左ノ四掛ヲ置キ科業ヲ分掌セシム

一、材料掛

二、製藥掛

三、機械掛

四、調理掛

第十二條 左ニ掲クル事項ハ各掛ニ於テ掌理ス

一、火藥及爆裂藥製造ノ方法並其取調ニ關スル事項

二、職工人夫ノ勉否ヲ監査シ之ヲ督役スル事

三、所要ノ工費及器具物品ノ費額豫算ノ下調ヲ爲ス事

四、主管ノ物品ヲ會計課及購買委員ニ於テ購入スル時検査委員ノ委任ヲ受ケ其良否ヲ檢定スル事

五、帳簿ヲ管理シ負擔ノ業務ヲ定期ニ報告スル事

第十三條 材料掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、火藥ノ原料ヲ精製スル事

二、原料ノ良否ヲ檢定スル事

三、材料品化學的分析ノ事

第十四條 製藥掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、火藥及爆裂藥ヲ製造又ハ改造スル事

第十五條 機械掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、蒸氣罐及原動機ヲ主管シ並各工場ノ機械ヲ監督シ其利害得失ヲ報告スル事

二、機械類ノ据付及之ニ關スル事

三、至急ヲ要スル器具機械些細ノ製作修理及毀損還納品ヲ復舊修補スル事

四、製圖ノ事

第十六條 調理掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、本科ノ主管ニ屬スル財産ノ増減取調ニ關スル事項

- 二、職工人夫ノ就業時間並賃錢ヲ調査報告スル事
 - 三、本科所屬員ノ勤務簿ヲ調査スル事
 - 四、職工人夫ノ雇役解雇ニ關スル事項
 - 五、物品ノ要求ニ關スル事項
 - 六、貯藏火藥ヲ主管シ之ヲ出納スル事
 - 七、火藥運搬ノ事
 - 八、火藥及爆裂藥ノ購買並拂下ニ關スル事項
 - 九、各掛ノ報告ヲ蒐集シ之ヲ調査統計スル事
 - 十、本科ニ屬スル文書ヲ起案シ及管理スル事
- 第十七條 検査科ニ左ノ二掛ヲ置キ火藥及爆裂藥ノ検査及試験ノ事ヲ掌理セシム
- 一、司検査掛
 - 二、理事掛
- 第十八條 左ノ掲ケル事項ハ各掛ニ於テ掌理ス
- 一、職工ノ勉否ヲ監査シ之ヲ督役スル事
 - 二、所要ノ工費及器具物品ノ入費豫算ノ下調ヲ爲ス事
 - 三、主管ノ物品ヲ會計課及購買委員ニ於テ購入スル時検査委員ノ委任ヲ受ケ其

良否ヲ檢定スル事

- 四、帳簿ヲ管理シ負擔ノ業務ヲ報告スル事
- 第十九條 司検査掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、火藥及爆裂藥ノ検査並試験ヲ爲シ其良否ヲ判定スル事
 - 二、本廠貯蓄火藥及規定藥ヲ定期及臨時ニ検査又ハ試験スル事
 - 三、火藥及爆裂藥ノ存廢ヲ鑑定スル事
 - 四、火藥及爆裂藥ノ検査及試験ノ方法ヲ取調フル事
 - 五、火藥ノ試験上ニ須要ノ天候ヲ觀測スル事
- 第二十條 理事掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ
- 一、標本火藥及火藥ノ検査及試験用ノ參考品ヲ主管スル事
 - 二、本科ノ主管ニ屬スル財産ノ取調ニ關スル事項
 - 三、本科ニ屬スル判任官以下ノ勤務簿ヲ調査スル事
 - 四、本科ニ屬スル文書ヲ受ケ起案發送シ並書類ヲ管理スル事
- 第二十一條 會計課ニ左ノ三掛ヲ置ク
- 一、司計掛
 - 二、用度掛

三、整理掛

第二十二條 左ニ掲クル事項ハ各掛ニ於テ掌理ス

一、所要物品ノ費額豫算ノ下調ヲ爲ス事

二、主務ノ文書ヲ起案シ帳簿ヲ管理シ負擔ノ事務ヲ報告スル事

第二十三條 司計掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、收入支出ノ事務

二、本課所屬員ノ勤務簿ヲ調査スル事

第二十四條 用度掛ニ所掌事項ハ左ノ如シ

一、物品會計ノ事務

二、應費ノ豫算ヲ取調フル事

三、物品購買賣却ノ事務

四、營繕費ノ豫算ヲ取調フル事

五、使丁給仕ヲ支配スル事

六、定雇夫並臨時本課ニ要スル職工人夫ヲ雇役スル事

七、課外ニ要スル職工人夫及舟車馬ヲ雇入ル事

八、廠内造修ニ屬セサル器具物品ノ製作修理ニ關スル事項

九、諸建造物ノ修繕及物品ノ復舊修理ニ關スル事項

十、他ノ主管ニ屬セサル土地並諸建造物ヲ保管スル事

十一、本課ニ屬スル物品ヲ購入スル時検査委員ノ委任ヲ受ケ其良否ヲ檢定スル事

第二十五條 整理掛ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、兵器彈藥及水雷費中規定ノ物品購買費ノ豫算ヲ取調フル事

二、兵器彈藥及水雷費支辨ニ屬スル一切ノ費項ヲ整理スル事

三、火藥及爆裂藥製造修理ニ係ル實費及購買費ヲ取調フル事

四、火藥原料ノ精製ニ係ル實費ヲ取調フル事

第二十六條 本廠勤務軍醫ノ所掌事項ハ左ノ如シ

一、廠内衛生ニ關スル事項

二、公務負傷及急病者アル時ハ之ヲ診斷施療スル事

三、臨時發病者アル時ハ之ヲ診斷施療スル事

四、藥品療用品ヲ管理スル事

五、看病夫ヲ指揮シ其勉否ヲ監査スル事

第二十七條 屬一名ヲ廠長專屬員トシ左ノ事項ニ從事セシム

- 一、廠長若クハ廠名ヲ以テスル文書ノ受附及管守ノ事
 - 二、各科課ノ諸報告取纏ノ事
 - 三、祕密文書ノ取扱ヲ爲ス事
 - 四、官印ヲ監守スル事
 - 五、本廠職員ノ履歷ニ關スル事項
 - 六、廠長室及專屬員ノ備品ヲ主管スル事
 - 七、諸報告ノ提出日限ヲ計查申告スル事
 - 八、他ノ主管ニ屬セサル事務ノ取扱ヲ爲ス事
- 第二十八條 風一名ヲ監護長トシ左ノ事項ヲ掌ラシム

- 一、廠内取締ノ事
- 二、監護支配ノ事
- 三、消防具ヲ主管シ及消防ノ手配ヲ爲ス事

第二章 文書取扱

第二十九條 本廠ニ到來スル文書ハ凡テ廠長專屬員之ヲ受領シ其件名ヲ簿冊ニ登載シ番號ヲ記シテ廠長ノ閱覽ニ供シ廠長親展ノモノハ直ニ廠長ニ呈ス可シ

第三十條 廠長ハ文書ヲ閱覽シ其主務ノ科課指示ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ回

致セシメ事ノ急施ヲ要スルモノハ特ニ急印ヲ捺ス可シ

第三十一條 科課長ハ前條回致サレタル文書ヲ熟閱シ其處辨ヲ要セサルモノハ之ヲ保管シテ其旨ヲ專屬員ニ通知シ處辨ヲ要スルモノハ受領ノ日直ニ其施行ノ手續ヲナス可シ但直ニ施行シ難キモノハ三日以内ニ文案ヲ起草シテ廠長ニ呈シ該日數外ニ渉ル調査ヲ要スルトキハ豫メ其事由ヲ開申ス可シ又急印アルモノハ特ニ速ニ處辨ス可シ

第三十二條 事ノ聯帶ニ渉ル文書ハ主務ノ科課ニ於テ立案シ關係科課長ト協議ノ上連印シテ之ヲ出ス可シ其協議ヲ爲スハ主任者面議諮詢スルヲ要ス若シ彼此意見ヲ異ニシテ決セサル時ハ直ニ廠長ニ而陳シテ決裁ヲ乞フ可シ

第三十三條 專屬員ハ科課ニ回致シタル文書ニ對スル處辨ノ日數ヲ訂查シ若シ日限ヲ經過スルモ廠長ニ出サレルモノアル時ハ其件名及科課名ヲ廠長ニ開申ス可シ

第三十四條 科課ヨリ出シタル文案ハ廠長檢印ノ後其科課ニ下シテ淨寫セシメ而シテ專屬員ヲシテ之ヲ發付セシム可シ

第三十五條 大臣ノ令達ハ廠長一覽ノ後專屬員ヲシテ主務ノ科課ニ回致セシム可シ但他ノ科課ニ關係スルモノハ主務ノ科課ヨリ之ヲ回覽セシム可シ

第三十六條 科課ニ回覽ヲ要スル文書ハ科課回覽ノ印ヲ捺シ專屬員ヲシテ之ヲ回致

セシム可シ科課ハ同覽ノ後其證トシテ各其長捺印シ同尾ヨリ專屬員ニ還付ス可シ
附則

第三十七條 製造科製藥掛ノ所掌事項中爆裂藥ノ製造ハ當分之ヲ施行セス

●海軍省定員表

明治二十二年三月
海軍省達第五十三號

本省定員別表ノ通定ム

(別表)

海軍省定員表

第一局 少將	局長	大臣官房 次官	秘書官 主事 副主事	佐官或ハ 主計監 大佐 主計監	内兼 務一	屬員 屬三	
		局長	課 課	長 課	次 長	屬 員	技 師 生 生
第一局 少將	局長	附屬 記録課	佐官或ハ主計監			屬 員	
		第一課	佐官			屬 員	
		第二課	佐官			屬 員	
		第三課	主計監			屬 員	
		軍法課	主理 等以上	兼務		屬 員	五
		第一課	佐官或ハ技監			屬 員	
		第二課	技監			屬 員	
		第三課	佐官			屬 員	
		第四課	主計監			屬 員	
		第一課	主計員			屬 員	
		第二課	主計監			屬 員	
		第三課	主計監			屬 員	

會計局 主計總監 專屬員 屬一	第二局 少將 專屬員 屬二	第三課	主計監	一	大主計	一	屬 員	
			第二課	主計監	一	大主計	一	屬 員
		第一課	主計員	一	大主計	一	屬 員	
		第四課	主計監	一			屬 員	
		第三課	佐官	一	大尉或ハ大機關士	一	屬 員	
		第二課	技監	一	大技士	一	屬 員	
		第一課	佐官或ハ技監	一	大尉或ハ大技士	一	屬 員	
		第三課	主理 等以上	兼務	主理 等以下	兼務	屬 員	五
		第一課	技手		上等兵曹		屬 員	
		第二課	技手		上等兵曹		屬 員	
		第三課	技手		上等兵曹		屬 員	
		第四課	技手		上等兵曹		屬 員	
		第一課	主計員				屬 員	
		第二課	主計監				屬 員	
		第三課	主計監				屬 員	

第二局第三課第四課ニ技師各一人ヲ置ク
總計 百六十八人内兼務三人

●横須賀鎮守府海兵團定員職別表

明治二十三年十一月
海軍省達第三百八十四號

第四類 官制

大軍醫	二	一等看護手	一	二等看護手	一	二等看護夫	一
少軍醫	二	二等看護手	一	三等看護手	一	三等看護夫	二
主計少監	一	主計帳	一	新兵教員	一	一等厨夫	五
大主計	一	主計帳	一	新兵教員	一	二等厨夫	七
少主計	二	主計帳	六	新兵教員	五	三等厨夫	二十

一、本表兵曹水兵定員ノ内一等兵曹二名二等兵曹二名三等兵曹二名ハ衛兵伍長トシ一等水兵二十名二等水兵二十名ハ衛兵トス
 二、本表軍樂手定員ノ内一等軍樂手二名二等軍樂手二名三等軍樂手二名ハ軍樂特科練習生トス
 三、本表人員中軍樂員ハ鎮守府司令長官旗艦増加定員ニ充ツルモノトス
 四、五等卒ハ補充兵ト爲スヘキモノタルニ依リ本表ニ掲ケス
 五、新兵ノ數教員一名ニ付二十名ヲ超過スルトキハ新兵十名コトニ一名ノ制ヲ以テ臨時教員ヲ増加スルコトヲ得但新兵減少ノ割合ニ應シ増加シタル教員ヲ減少スルモノトス
 六、船匠手鍛冶手機關手看護手及主帳ノ内若干名ヲシテ伍長ヲ兼務セシム

●吳鎮守府海兵團定員職別表
 明治三十三年十一月
 海軍省達第三百九十六號

官名	職名	人員	官名	職名	人員
吳鎮守府海兵團定員職別表					

第四類 官制

大佐團長	一	上等兵曹	一	一等水兵	三十七
少佐副長	一	砲兵曹	二	二等水兵	七十三
大尉分隊長	十二	新砲兵曹	四	三等水兵	百〇五
少尉分隊長	十二	新砲兵曹	二	一等水兵(信號)	一
		新砲兵曹	二	二等水兵(信號)	二
		砲兵曹	一	三等水兵(信號)	三
		新兵教員	一		
		新兵教員	一		
		軍樂師	一		
		一等軍樂手	六		
		二等軍樂手	六		
		三等軍樂手	七		
		船匠師	二		
		一等船匠手	一		
		二等船匠手	二		
		三等船匠手	三		
		一等鍛冶手	二		
		二等鍛冶手	二		
		三等鍛冶手	二		
		新兵教員	一		
		新兵教員	一		
			五		
			四		
			三		
			二		
			一		
			六		
			九		

少主計	大主計	主計少監	少軍醫	大軍醫	軍醫少監	大機關士	機關少監	少尉	分隊士	徵募官
二	一	一	二	一	一	一	一	十二		二
三	二	一	二	一	一	三	二	一	一	一
二等主帳	二等主帳	一等主帳	二等看護手	一等看護手	一等看護手	三等機關手	二等機關手	一等船匠手	二等船匠手	一等船匠手
		新兵教員		新兵教員	新兵教員	新兵教員	新兵教員	新兵教員	新兵教員	新兵教員
五	五	三	一	一	一	六	二	二	二	二
五十五	三十五	一	四	三	二	四	四	四	三	二
三等府夫	二等府夫	一等府夫	二等看病夫	一等看病夫	一等看病夫	二等火夫	一等火夫	二等木工	一等木工	一等木工
十	四	二	二	一	一	四	四	三	二	一
十六	四	二	四	四	十	六	六	六	六	六

一、本表人員中一等兵費二名二等兵費二名三等兵費二名ハ衛兵長トシ一等水兵十四名二等水兵十四

二、本表人員中軍樂員ハ鎮守府司令官旗幟增加定員ニ充ツルモノトス
 三、本表人員中補充兵ト爲スヘキモタルニ依リ本表ニ掲ケス
 四、新兵ノ數教員一名ニ付二十名ヲ超過スルキハ新兵十名コトニ一名ノ割ヲ以テ臨時教員ヲ增加ス
 五、船匠手銀治手機關手看護手及主帳ノ内若干名ヲシテ長ヲ兼務セシム

●横須賀吳佐世保鎮守府定員表

朕横須賀鎮守府吳鎮守府佐世保鎮守府定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年十月
 勅令第二百三十七號

横		
幕	僚	部
參謀長 參謀 秘書 秘書	司令官傳令使 大主計 大尉	參謀長 測器主管 文庫主管
大佐 少佐 大尉	大尉 大尉 大尉	軍港司令官 副官 副官 司令官傳令使
上等兵費 七	機關師 三	上等技工 六
	船匠師 二	上等看護手 一
		豫備艦長 之ヲ兼テシム

須賀鎮守府					
司令長官 中將					
計主	兵器部	造船部	司令部下部		
部長 出納課長 材料課長 衣糧課長 病院課長	部長 武庫主管(砲房掛長) 武庫主管(水雷武庫) 主幹(砲房掛長) 主幹(水雷掛長) 主幹(製造掛長) 主幹(砲房掛長) 主幹(水雷掛長) 主幹(製造掛長)	部長 計畫科主幹 計畫科主幹 製造科主幹 製造科主幹	豫備艦機長 豫備艦長副官 知港事 副知港事	機關監 大尉 大佐 大尉	大尉 大佐 大尉
主計大監 主計少監或ハ大主計 主計少監或ハ大主計 主計少監或ハ大主計 主計少監或ハ大主計	大佐 少佐或ハ大尉 少佐或ハ大尉 少佐或ハ大尉 少佐或ハ大尉	大技監 大技監 大技監 技監或ハ技士 技監或ハ技士	機關監 大尉 大佐 大尉	機關監 大尉 大佐 大尉	大尉 大佐 大尉
二等卒 九	一等卒 六十七 三等下士 二十四 技手 上等技工 用スルコトヲ得 五十 技手 上等技工 用スルコトヲ得 五十一	二等下士 二十六 二等下士 二十六	一等下士 二十六	一等下士 二十六	上等主帳 七

吳鎮					
司令長官 中將					
計主	兵器部	造船部	司令部下部		
部長 出納課長 材料課長 衣糧課長 病院課長	部長 武庫主管(砲房掛長) 武庫主管(水雷武庫) 主幹(砲房掛長) 主幹(水雷掛長) 主幹(製造掛長) 主幹(砲房掛長) 主幹(水雷掛長) 主幹(製造掛長)	部長 計畫科主幹 計畫科主幹 製造科主幹 製造科主幹	豫備艦機長 豫備艦長副官 知港事 副知港事	機關監 大尉 大佐 大尉	大尉 大佐 大尉
主計大監 主計少監或ハ大主計 主計少監或ハ大主計 主計少監或ハ大主計 主計少監或ハ大主計	大佐 少佐或ハ大尉 少佐或ハ大尉 少佐或ハ大尉 少佐或ハ大尉	大技監 大技監 大技監 技監或ハ技士 技監或ハ技士	機關監 大尉 大佐 大尉	機關監 大尉 大佐 大尉	大尉 大佐 大尉
二等卒 九	一等卒 六十七 三等下士 二十四 技手 上等技工 用スルコトヲ得 五十 技手 上等技工 用スルコトヲ得 五十一	二等下士 二十六 二等下士 二十六	一等下士 二十六	一等下士 二十六	上等主帳 七

○司法省

●司法省官制改正 明治二十三年六月 勅令第百號

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
司法省官制

- 第一條 司法大臣ハ司法上ノ行政及警察並恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ
監査シ行政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス
- 第二條 司法省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 二 裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
 - 三 判事檢事巡回ニ關スル事項
- 第三條 司法省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 司法省ニ左ノ諸局ヲ置ク
 - 民事局 刑事局 會計局
- 第五條 民事局長及刑事局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ會計局長ハ奏任一等
以下三等以上トス
- 第六條 民事局ニ於テハ民事ノ法律命令ニ關スル事務ヲ掌ル

●司法省官制
第五條中追加
明治二十三年十
月
勅令第二百二十
二號
朕司法省官制中改
正ノ件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム
司法省官制第五條
ノ次ニ左ノ一項ヲ
加フ
會計局ニ局長ヲ
置ク

- 第七條 刑事局ニ於テハ刑事ノ法律命令ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 會計局ニ於テハ本省會計事務並裁判所ノ豫算及決算ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 司法省試補ハ五人ヲ以テ定員トス
- 第十條 司法省屬ハ百六十八人ヲ以テ定員トス

附屬

第十一條 裁判所構成法實施ノ日ニ至ルマテ第三條ノ規程ニ拘ラス參事官七人書記
官二人ヲ増置スルコトヲ得

●裁判所構成法 明治二十三年二月 法律第六號

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施
行スヘキコトヲ命ス

裁判所構成法目次

- 第一編 裁判所及檢事局
- 第二章 總則
- 第三章 區裁判所
- 第三章 地方裁判所
- 第四章 控訴院

- 第五章 大審院
- 第二編 裁判所及檢事局ノ官吏
 - 第一章 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格
 - 第二章 判事
 - 第三章 檢事
 - 第四章 裁判所書記
 - 第五章 執達吏
 - 第六章 廷丁
- 第三編 司法事務ノ取扱
 - 第一章 開廷
 - 第二章 裁判所ノ用語
 - 第三章 裁判ノ評議及言渡
 - 第四章 裁判所及檢事局ノ事務章程
 - 第五章 司法年度及休暇
 - 第六章 法律上ノ共助
- 第四編 司法行政ノ職務及監督權

裁判所構成法

- 第一編 裁判所及檢事局
 - 第一章 總則
 - 第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス
 - 第一 區裁判所
 - 第二 地方裁判所
 - 第三 控訴院
 - 第四 大審院
 - 第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 第三條 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 第四條 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第五條 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク
 - 第六條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル

手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラル、ヤチ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若クハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限り別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スレ文書ヲ送達シ及裁判所

ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁

判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

第十二條 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セズ但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年以前以テ之ヲ定ム

第十四條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判所權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟

(イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ關ル訴訟

(ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若クハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受

ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

第十六條 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴退ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件

ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ他ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ム

第二十一條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年
前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長
會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ
第二十三條 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ
未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結
了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休
暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久
ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス
裁判所ノ事務其現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ
一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ
判事中共ノ代理ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所

長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ
區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ
其他ノ請求

第二 第二審トシテ
(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メ

タル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條 地方裁判所ノ權限並ニ其裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用サルコトヲ得此場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其他

ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條 事務ノ分配及結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二 控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代

理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ザルコトヲ得ス

第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條 控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ

五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章 大審院

第四十三條 大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條 大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條 大審院ノ事務ノ分配竝ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四類 官制

第四十六條 大審院長ハ何時ニテモ部長若シハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

第四十七條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付會テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

- 第一 終審トシテ
 - (イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告
 - (ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及裁判

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲テ控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條 大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事申官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト

認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條 大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長並ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

第五十八條 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験ニ關ル細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條 司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニモ之ヲ

ヲ罷免スルコトヲ得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十條 一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條 試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三 登記ヲ爲ス事

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得

第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ闕位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ク

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スシテ試補ヲ命セラル、コトヲ得

第六十六條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得ス

- 第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

第六十八條 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ 天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部

長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十條 十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十一條 第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 第一 公然政事ニ關係スル事
- 第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事
- 第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事
- 第四 商業ヲ營ミ又ハ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラル、コトナシ

但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラル、ハ此限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴訟ノ始若シハ其間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條 判事身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタル

トキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルヲ得

第七十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判

事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシム

ルノ權ヲ有ス

第七十六條 判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴訟ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章 檢事

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十一條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事

務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ

範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他

ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令

及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域

内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第八十五條 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

監督書記及書記長ハ各々其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條 書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配

上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

第八十八條 書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス

書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條 書記ニ任セララル、ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲ス

ヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條 書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セララル、コトヲ得

第九十一條 書記ハ其上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若クハ檢事ニ附屬シタルト

キモ亦其ノ檢事局又ハ判事若クハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若クハ變更ニ關ル場

合ニ於テ其ノ調製若クハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シ

テ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則

中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修

習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設

ケタルモノハ此限ニ在ラス

第五章 執達吏

第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄

區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラハ、ニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルハ補助金ヲ受ク

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ

場所ニ於テモ其職務ヲ行フ

第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送

達ス但シ書記ヨリ直接ニ若クハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此限

ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲サ、ル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ滴實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄

スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章 廷丁

第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地

方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第一百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル

事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送

達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第一百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域

内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第一百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬

シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第一百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第一百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第一百七條 裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第一百八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第一百九條 裁判長ハ審問ヲ妨グル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違反者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若クハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タズシテ本條ノ違反者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二 違反者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第一百一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第一百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若クハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第一百十三條 第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若クハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第一百十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第一百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ユ

第一百十六條 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百十七條 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラル、コトヲ得

第一百十八條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及言渡

第一百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第一百二十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第一百二十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セズ但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末並ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第一百二十二條 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第一百二十三條 裁判ハ過半数ノ意見ニ依ル
金額ニ付判事ノ意見ニ說以上ニ分レ其ノ說各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至

ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス
 刑事ニ付其ノ意見三説以上ニ分レ各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被告
 人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス
 第二百二十四條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得
 ス

第四章 裁判所及検事局ノ事務章程

第二百二十五條 裁判所及検事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及検事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄区域内ノ裁判所及検事局ニ對シテ
 事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘシ統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及検事局ノ開庭時間及
 開庭ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度及休暇

第二百二十六條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第二百二十七條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第二百二十八條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴
 訟ニ著手セス

第一 爲替手形若クハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求

第二 船舶又ハ運送貨又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕ニ關
 リ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト
 賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八 前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ
 定ムル所ニ從ヒ休暇部若クハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認
 メタル請求若クハ事件

第二百二十九條 休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法
 ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第二百三十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以
 上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム
第六章 法律上ノ共助

第三百三十一條 裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第三百三十二條 檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第三百三十三條 裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第三百三十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若クハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス
第三百三十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若クハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第三百三十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告ス

事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第三百二十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百二十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第三百二十八條 裁判所若クハ検事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第三百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第三百二十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若クハ検事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ満足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第三百四十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若クハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第三百四十一條 裁判所及検事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若クハ検事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第三百四十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル

裁判所ノ検事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第三百四十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第三百四十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ牴觸スト雖モ當分ノ内仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

●裁判所構成法施行條例

明治二十三年三月 法律第二十二号

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法施行條例

第一條 從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條 始審裁判所從來ノ検事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ検事局トス控訴院大審院ノ検事局モ亦同シ

第三條 區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモ

ノトス

第四條 裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條 裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條 裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條 裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條 明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條 明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條 明治二十一年勅令第六十四號ハ仍効力ヲ有ス
區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條 東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條 沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條 樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關ル明治十五年第十六號第四十一號及明治十八年第四十二號布告ハ仍効力ヲ有ス
前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條 明治二十一年勅令第七十一號清國並ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセズ

第十七條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセズ

第十八條 裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條 裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條 三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上以上司法省高等官(會計局ノ高等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條 裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

●裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル

規定

明治二十三年十月
勅令第二百五十四號

朕裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官及裁判所書記ハ同法ニ定メタル判事檢事及裁判所書記トス

第二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官ニシテ同法ニ依リ更ニ補職セラレサル者ハ休職トス

第三條 判事十五年以上奉職ノ者裁判所構成法實施後疾病其他ノ事故ニ因リ職務ヲ

執ルコト能ハサルニ至リ休職ヲ願出タルトキハ司法大臣ハ休職ヲ命スルコトヲ得
但檢事ヨリ判事ニ轉任シタル者ハ檢事ノ勤務年數ヲ通算ス

第四條 休職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第五條 休職判事ノ俸給支給ノ方法ニ付テハ一般非職官吏ノ例ニ依ル

● 裁判所處務規程

明治十九年七月
司法省令丙第八號

裁判所

裁判所處務規程別冊ノ通相定ム

但別冊ハ別ニ送付ス

(別冊)

裁判所處務規程

裁判官

第一條 各裁判所ハ一年間各局又ハ各裁判官ノ每週開クヘキ訟廷ノ日割ヲ豫定シ廳
内公衆ノ知リ得ヘキ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

開廷ノ期日ニハ當日裁判スヘキ事件ヲ引續キ審理判決スヘシ

第二條 訴訟人喚出ノ時刻及審判ノ順序ハ訴訟人ノ便宜ヲ計リ各裁判官之ヲ定ムル

一ヲ得

第三條 各裁判所ニハ訟廷出勤簿ヲ設ケ裁判官ヲシテ開廷ノ時刻前之ニ押印セシメ
局長又ハ裁判所長直ニ之ヲ調査シテ後檢印シ若シ欠勤者アルトキハ欠勤ノ理由及
其結果ヲ出勤簿ニ記入ス但シ其抄録ハ裁判所ノ長毎月之ヲ司法大臣ニ進達スヘシ

第四條 裁判官文書ヲ受ケタルキハ直ニ其處分方ヲ文書ノ餘白又ハ別紙ニ記載シ之
ヲ書記ニ下附スヘシ

文書ノ處分一時ニ結了シ能ハサルキハ後日提出ノ期限ヲ豫定シテ之ヲ書記ニ下附
スヘシ

第五條 裁判書其他重要ナル文書ノ原按ハ裁判官自ラ之ヲ作ルヘシ

第六條 裁判官差支アルキ之ヲ代理スヘキ者ヲ豫定スルニハ其事務ニ妨ケナキヲ要
スルヲ以テ成ルヘク差支アル者ト同日ニ訟廷ヲ開カサル裁判官ヲ選ヒ置クヘシ

第七條 裁判官ノ分課ハ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ依リ之ヲ定ムト雖モ事務ノ繁
閑ニ從ヒ甲局ノ裁判官ヲシテ乙局ノ事務ヲ兼掌セシムルヲ得

第八條 各裁判所ニ(治安裁判)ニ於テハ其廳ノ行政事務ニ關シ裁判官總會議ヲ開ク
アルヘシ但檢事長又ハ上席檢事ハ其會議ニ出席シテ意見ヲ述フヘシ

總會議ニ過半數ノ裁判官出席スルニ非レハ之ヲ開クヲ得ス其會議ハ裁判所ノ長

裁判所處務規程改正

明治二十二年三月... 司法省令第一號... 明治十九年司法省令第八號... 處務規程中左ノ通り改正シテ施行ス...

ヲ以テ議長トス

第九條 總會議ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

一 廳内ノ執務細則ヲ設定變更スルヲ

一 廳内雇員ノ取締規則ヲ定ルヲ

一 裁判區畫ノ變更ニ關シ司法大臣ニ意見ヲ述フルヲ

一 法律及諸規則ノ執行ニ關シ檢察長又ハ上席檢事ヨリ請求アリタル事項ヲ議決スルヲ

一 司法大臣ヨリ諮問ニ付シタル法律ノ草案ニ付意見ヲ述ルヲ

一 裁判所附屬吏員ノ組合ヨリ提出シタル意見ヲ審査スルヲ

第十條 控訴院ニ於テハ所轄裁判所ノ一般ニ遵守スヘキ司法省令及訓令ノ施行細則ヲ議定スルヲ爲メ臨時總會議ヲ開クハアルヘシ

第十一條 控訴院ハ毎年九月十五日(休假日)ニ於テ總會議ヲ開キ前年八月ヨリ其年ノ七月迄一年間所轄裁判所ノ執リタル裁判事務ノ成績ニ關スル檢察長ノ報告ヲ聽キ匡正スヘキ弊害アレハ相當ノ處分ヲ評決スヘシ

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ十二月初旬ニ於テ總會議ヲ開キ其應翌年中各裁判官ノ分課代理ノ順序及開廷ノ日割ヲ豫定スルヲ爲メ其意見ヲ詢フヘシ

第十三條 控訴院始審裁判所ノ裁判官ニ欠員アルハ十日以内ニ控訴院長其候補者ニ名又ハ三名ヲ指定シテ司法大臣ニ具申スヘシ

第十四條 治安裁判所ニ缺員アルトキハ十日以内ニ裁判官ニ付テハ所轄裁判所長書記ニ付テハ上席檢事ト協議連署シ候補者二名又ハ三名ヲ指定シテ所屬控訴院長ニ具申スヘシ

第十五條 前二條ノ場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル候補者ノ取捨ハ司法大臣ノ權内ニアリトス

第十六條 控訴院長ハ檢察長ト協議シ司法大臣ノ名義ヲ以テ其廳及所轄裁判所判任官吏ノ増俸及轉勤ヲ攝行スルヲ得大審院長ノ其廳書記ニ於ケルモ亦同シ但シ始審裁判所及治安裁判所判任官吏ニ付テハ控訴院長豫メ始審裁判所長又ハ上席檢事ニ諮問スヘシ

第十七條 控訴院書記ノ職務ニ關シテハ所屬控訴院長ノ指示ニ依リテ執行スルヲ得...

始審裁判所判任官其管内限リノ轉勤ハ裁判所長又ハ上席檢事之ヲ控訴院長又ハ檢事長ニ具申スルヲ得

前各項ノ場合ニ於テハ攝行ノ後直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

第十七條 裁判所ノ長ハ所轄裁判所裁判事務ノ整理ヲ視察スル爲メ其他必要ノ場合ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得管内ニ出張又ハ巡回スルコトヲ得但シ出張ニ付認可ヲ得ルノ暇ナキハ出張ノ後直ニ司法大臣ニ報告スヘシ

第十八條 裁判所ノ長ハ會計收支命令ノ事ヲ掌リ及會計事務ヲ調査スヘシ

控訴院長ハ一定ノ期限内ニ其院及所轄裁判所ノ豫算表決算表ヲ司法大臣ニ提出スヘシ

第十九條 控訴院長ハ會計事務調査ノ爲メ其他必要ナル場合ニ於テハ書記ヲ所轄裁判所ニ出張セシメ又ハ所轄裁判所ノ書記ヲ招喚スルヲ得

第二十條 裁判所ノ長ハ各其主掌ニ係ル諸表ノ調製ヲ管理シ司法大臣ニ進達スヘシ

第二十一條 裁判所ノ長ハ其廳ノ印章ヲ調製シ其印影ヲ司法省ニ進達スヘシ但治安

裁判所ノ判事ハ所屬始審裁判所長ノ許可ヲ得テ調製スヘシ
第二十二條 裁判所ノ長ハ其廳經費定額内ニテ雇員ヲ使用スルヲ得但治安裁判所判事ハ所屬始審裁判所長ノ許可ヲ得テ之ヲ使用スヘシ

第二十三條 控訴院長ハ其廳及所轄裁判所ノ職員ヲ勅任官ニ對シ司法大臣ノ名義ヲ以テ除服出仕ヲ命ジ及例規ノ賜暇ヲ許スルコトヲ得

第二十四條 始審裁判所長ハ其廳及所轄治安裁判所職員檢察官ノ考績ヲ付毎年八月所屬控訴院長ニ報告ヲ爲ス可シ但シ書記以下ニ付テハ上席檢事ト協議スヘシ

控訴院ノ長ハ其廳及所轄裁判所職員檢察官ノ考績ヲ付毎年九月司法大臣ニ報告ヲ爲スヘシ但シ書記官以下ニ付テハ檢事長ト協議スヘシ

第二十五條 始審裁判所長ハ檢事ノ意見ヲ詢ヒ毎年其廳裁判官中ヨリ豫審掛ヲ指名シ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十六條 始審裁判所長ハ始安裁判所所在地外ニ法廷ヲ開クヲ必要ト認ムルトキハ司法大臣ニ具申スヘシ

第二十七條 始審裁判所長治安裁判所判事ハ書記ノ分任ヲ定メ書記數名アル片ハ一名ヲ書記長ニ命スルコトヲ得

第二十八條 裁判所ト中央官廳トノ間ニ往復スル文書ハ總テ司法大臣ヲ經由スヘシ

第二十九條 始審裁判所長治安裁判所判事ヨリ司法大臣ニ中稟報告スヘキモノハ總テ監督上官ヲ經由スヘシ但特別ナル場合ハ直ニ司法大臣ニ中稟報告スルヲ得

判事ニモ亦之ヲ適用ス

第三十一條 裁判所官吏ノ事務取扱ニ對スル抗告ハ其監督上官之ヲ判定シ最終ノ抗告ハ司法大臣之ヲ判定ス

檢察官

第三十二條 檢事ハ檢事長ノ代理者タルヲ以テ其特別委任ヲ俟タスシテ各自其本務ヲ行フヲ得但シ檢事數名アル時ハ檢事長ハ裁判所ノ事務分課法ニ依リ檢事ノ分任ヲ定ムルヲ得

第三十三條 檢事ニ分任シタル事件ト雖モ被告人ノ身分又ハ事件ノ性質ニ依リ重大ナルモノハ檢事長自ラ之ヲ取扱フヘシ若シ自ラ取扱フコト能ハサル場合ニ於テハ特別ノ注意ヲ要ス

又左ニ記載スル書類ノ原接及正本ニハ檢事長ノ署名捺印ヲ要スルモノトス

- 一 重罪公訴狀
- 一 告訴發テ受ケタル事件ニ付起訴ヲ爲サ、ルノ通知書
- 一 監督上官ニ差出スヘキ書類
- 一 上訴再審哀訴ニ關スル書類
- 一 特赦ノ上申書

一 檢事ノ處分ニ對スル抗告ノ判定書

一 中央官廳及地方廳トノ往復書類

第三十四條 控訴院檢事長ハ管内代言人ノ取締上必要ト認ムル規則ヲ設ケ之ヲ告達スルヲ得

始審裁判所上席檢事ハ管内代言人ヲ監督シ其能否ニ付隨時控訴院檢事長ニ報告ヲ爲シ控訴院檢事長ハ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ其名簿ニ變更アルキモ亦同シ

第三十五條 檢事其所在地外ニ臨檢スヘキキハ檢事長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十六條 控訴院檢事長ハ司法大臣ノ命令又ハ認可ヲ得テ管内ヲ巡視シ法律命令ノ執行ニ關スル利弊ヲ監査スヘシ

又檢事長ハ必要ナル場合ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得隨時管内ニ出張シ又ハ管内ノ檢事ヲ招喚スルヲ得但シ時機急迫ニシテ認可ヲ得ルノ暇ナキキハ出張又ハ招喚ノ後速ニ其旨ヲ具申スヘシ

第三十七條 檢察官ハ其監督上ノ職務ニ付隨時司法大臣ニ機密報告ヲ爲スヘシ

第三十八條 始審裁判所上席檢事ハ毎年八月其所在裁判所及治安裁判所ノ前一箇年間取扱ヒタル事務 舉否及其弊害ヲ匡正スルノ方法ヲ所屬控訴院檢事長ニ具申スヘシ

第三十九條 控訴院檢事長ハ毎年九月十五日ニ開クヘキ總會議ノ席ニ於テ管内裁判

所ノ前一箇年間取扱ヒタル事務ノ學否及其弊害ヲ匡正スルノ方法ヲ演説スヘシ
第四十條 前條演説ノ筆記ハ九月下旬ニ之ヲ司法大臣ニ進達シ及ヒ所轄裁判所ニ
送致スヘシ

第四十一條 第四條第十三條第十四條第廿一條第廿二條第廿三條第廿四條第
廿八條第廿九條第三十一條ニ定メタル規則ハ檢察官ニモ亦之ヲ適用ス
第三十三條第三十五條第三十六條ニ定メタル檢察長ノ職務ハ始審裁判所上席檢事
ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第四十二條 始審裁判所支廳ノ上席判事ハ本規程ニ照準シ其廳及管内ノ行政事務ニ
付キ本廳長ノ代理ヲ爲シ其上席檢事ハ本廳上席檢事ノ職務ヲ行フモノトス但控訴
院長檢事長又ハ司法大臣ニ進達スヘキ文書ハ本廳ヲ經由スヘシ

●裁判官檢察官會同巡視規程

明治二十年一月
司法省訓令第四號

裁判官檢察官會同巡視規程左ノ通相定ム

第一章 裁判官及檢察官ノ會同

裁判所

第一條 各裁判所(大審院控訴院始審
裁判所ヲ包含ス)ノ長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後二年毎ニ四
月一日ヲ期シ司法省ニ會同ス可シ

第二條 會同裁判官ハ法律規則ノ實際適用上改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ

第十一條ニ掲ケタル事項ニシテ報告書ニ盡シ難キモノニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

第三條 司法大臣ハ法律規則草案ノ會議ヲ要ス可シト認ムルモノニ付會同裁判官ノ

會議ヲ開カシムルコトアルヘシ

第四條 司法大臣ハ法律規則其他ノ事項ニ付書面若シハ口頭ヲ以テ會同裁判官ニ諮

問シ其意見ヲ陳述セシムルコトアルヘシ

第五條 檢察長(大審院控訴
院ヲ包含ス)及ヒ各始審裁判所上席檢事ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾

後三年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同ス可シ

第六條 會同檢察官ハ其主管事務ニ關スル法律規則ノ改正増補ヲ要ス可シト認ムル

モノ及ヒ第十五條ニ掲ケタル事項ニシテ報告書ニ盡シ難キモノニ付意見ヲ陳述ス

可シ

第七條 裁判官會同ニ付キ第三條第四條ニ定メタル規則ハ檢察官會同ニ付テモ亦之

ヲ適用ス

第二章 裁判官及ヒ檢察官ノ巡視

●裁判官檢察官會同巡視規程中改正
明治二十二年三月
司法省訓令第四號
明治二十年一月訓令第四號
裁判官會同巡視規程第十條及第十一條ノ第三ヲ削除ス

第八條 各控訴院長ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得
東京大阪ノ兩控訴院長ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ管内ヲ二區ニ分割シ其院ノ評定官一名ヲシテ一區ノ巡視ヲ分擔セシムルコトヲ得

第九條 各始審裁判所長ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月二十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支應治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十條 控訴院始審裁判所ノ會計主務官ハ院長所長ニ隨ヒ巡視ヲ爲スコトヲ得

第十一條 裁判官巡視ニ付テハ左ノ條件ヲ視察スルヲ以テ緊要トス
一 裁判事務
二 司法行政事務
三 會計事務
四 公證人ニ關スル事務
五 司法大臣ヨリ特ニ命セラレタル事項

始審裁判所長ハ前項ノ外登記事務ヲ視察ス可シ

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ巡視ヲ終リタル後二十日內ニ視察ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ作り直チニ之ヲ司法大臣ニ送呈ス可シ

第十三條 各控訴院檢察事長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月二十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第八條第二項ハ東京大阪兩控訴院檢察事長ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 各始審裁判所上席檢察事ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月二十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支應治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十五條 檢察官巡視ニ付テハ左ノ條件ヲ視察スルヲ以テ緊要トス
一 檢察事務
二 未決囚監獄ノ狀況
三 司法警察事務
四 法律命令執行ノ利弊
五 代言人ニ關スル事務
六 司法大臣ヨリ特ニ命セラレタル事項

第十六條 裁判官巡視ニ付第十二條ニ定メタル規則ハ檢察官巡視ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十七條 第八條第九條第十三條及ヒ第十四條ニ記載シタル各官ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ發應ノ定日ヲ變更スルコトヲ得

●沖繩縣及小笠原島ニ於テハ同廳官吏ニ裁判官檢察官

ノ職務ヲ行ハシム 明治二十一年五月 勅令第三十五號

朕沖繩縣及小笠原島ニ於ケル裁判官檢察官職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
沖繩縣及小笠原島ニ於テハ當分ノ内同廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

●大審院並ニ裁判所書類保存規程

明治十八年十月 司法省丁第二十一號達

大審院裁判所

大審院並裁判所ノ書類保存規定左ノ通相定候條此旨相達候事

書類保存規程

- 第一條 勸解書類ノ保存期限ハ三年トス
- 第二條 勸解其他ノ民事訴訟書類ノ保存期限ハ七年トス
- 第三條 不動産並人事ニ關スル民事訴訟書類ノ保存期限ハ二十年トス但シ土地經界及水利ニ關スル必要ナル繪圖面等ハ永久之ヲ保存ス可シ
- 第四條 違警罪訴訟書類ノ保存期限ハ一年トス
- 第五條 輕罪訴訟書類ノ保存期限ハ六年トス

第六條 重罪訴訟書類ノ保存期限ハ二十年トス

第七條 第一條ノ期限ハ勸解落着ノ日ヨリ第二條以下ノ期限ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第八條 刑事關席裁判ニ關スル訴訟書類ハ其期滿免除ニ至ルヲ以テ期限トス但期滿免除ニ至ラサル前其言渡確定シタル者ハ第四條以下ノ規則ニ從フ

第九條 被告人逃走等ニ係リ公判ニ付スル能ハサル事件ノ訴訟書類ハ第四條第五條第六條ニ定メタル期限間之ヲ保存ス可シ但其期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス

第十條 民事刑事ノ言渡書及命令書ハ永久之ヲ保存ス可シ

第十一條 受付遞付並雜事ニ關スル簿冊類ノ保存期限ハ其記載ヲ終リタル日ヨリ二年トシ訴訟件名録ハ永久之ヲ保存ス可シ

第十二條 表記ニ關スル簿冊類ノ保存期限ハ其製表ヲ終リタル日ヨリ三年トス但表記及已決犯罪表ハ永久之ヲ保存スヘシ

第十三條 書記局ニ於テ管掌スル金錢物品ニ關スル簿冊類ノ保存期限ハ其事柄ノ終リタル日ヨリ十年トス

第十四條 公文記録赦典復權及處務手續其他決議ニ關スル簿冊ノ類ハ永久之ヲ保存ス可シ

第十五條 前數條ニ定ムル所ノ保存期限ヲ經過セシ書類ハ書記局ニ於テ審査シ目錄ヲ作リ檢事ノ職務ニ關スル書類ハ檢事其他ノ書類ハ大審院長又ハ裁判所長ノ檢閱ヲ經タル後細斷シテ之ヲ廢棄ス可シ但訴訟書類ノ副本ハ其正本現存セサル場合ヲ除クノ外保存期限ニ拘ハラズ裁判確定ノ後直チニ之ヲ細斷シテ廢棄スヘシ

第十六條 此規則ハ大審院ハ其創設控訴裁判所ハ上等裁判所ト始審裁判所ハ地方裁判ト稱セシ以後ノ書類ニ適用ス可キ者トス

○文部省

●文部省官制改正

明治二十三年六月 勅令第百一號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 文部省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外教科用圖書ノ檢定教育上必要ナル圖書ノ編纂及外國圖書ノ翻譯其他各局ノ所掌ニ屬セサル事務ヲ掌ラシム

第三條 文部省專任參事官專任書記官ハ各四人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ諸局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

會計局

第五條 專門學務局長及普通學務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第六條 專門學務局ニ於テハ大學校中學校專門學校技藝學校高等圖書館學士會院學術會及學位ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 普通學務局ニ於テハ師範學校小學校幼稚園女學校普通圖書館教育會及通俗教育ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 會計局ニ於テハ本省及所轄學校ノ豫算決算及省中ノ會計事務並所轄ノ地所建物ニ關スル事項ヲ掌ル

第九條 文部省ニ視學官五人ヲ置キ奏任トシ專門學務局及普通學務局ニ屬シテ學事ノ視察及學校檢閲ノ事ヲ掌ラシム又課長ヲ兼チシムルコトヲ得

第十條 文部省ニ技師二人ヲ置キ會計局ニ屬シテ學校建築ニ關スル事ヲ掌ラシム

第十一條 文部省ニ試補四人及技師試補一人ヲ置ク

第十二條 文部省ニ屬百三十人及技手四人ヲ置ク

●帝國大學令

明治十九年三月
勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令

第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス

第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第五條 帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

勅任

評議官

奏任

書記官

奏任

書記

判任

第六條 帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事

第二 帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事

第三 評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及議事ノ顛末ヲ文部大臣ニ報告スル事

第四 法科大學長ノ職務ニ當ル事

第七條 評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若クハ文部省ニ於テ開設ス

評議會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

第一 學科課程ニ關スル事項

第二 大學院及分科大學ノ利害ノ銷長ニ關スル事項

第八條 評議官ハ文部大臣各分科大學教授ヨリ各二人ヲ特選シテ之ニ充ツ

第九條 評議官ハ五箇年ヲ以テ任期トス任期滿ツルノ後時宜ニ依リ更ニ勤績ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 分科大學ハ法科大學科學大學工科大学文科大學及理科大學トス

●帝國大學令
中改正削除
明治二十三年十
一月
勅令第二百六十
九號
朕帝國大學令中改
正ノ件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム
帝國大學令中左ノ
通改正ス
第十一條各分科大
職員ヲ置ク左ノ如
シ長、教授、助頭、
助教授、書記、舍
監、書記、判任、
監、技手、判任、
授ハ特ニ勅任トナ
スコトアルヘシ又
長及教頭ハ勅任ノ
ハ勅任トス、第十
四條削除ス

法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス
第十一條 各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ

- 長 奏任
- 教頭 奏任
- 教授 奏任
- 助教授 奏任
- 舍監 奏任
- 書記 判任

第十二條 分科大學長ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍内ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 各分科大學ノ教頭ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

教頭ハ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第十四條 各分科大學ノ教授助教授ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數ニ應ジテ別ニ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

●帝國大學令第十條中改正追加

明治二十三年六月
勅令第九十三號

朕帝國大學令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年三月勅令第三號帝國大學令中左ノ通改正ス

第十條中「及理科大學」トアルヲ「理科大學及農科大學」ト改ム

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

農科大學ヲ分テ農學科林學科及獸醫學科ノ三部トス

●東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トシ同校官制廢

止 明治二十三年六月
勅令第九十二號

朕東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トナスノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トナシ明治十九年七月勅令第五十六號東京農林學

校官制ヲ廢ス

●東京學士會院規程 明治二十三年十月
勅令第二百六十四號

朕東京學士會院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京學士會院規程

第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル

所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス

第二條 東京學士會院ハ耆德碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ

一 帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

一 會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條 東京學士會院會員ハ各自専攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條 東京學士會院會員滿六十歳以上ノ者十名以内ヲ限り特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ

第六條 東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス

但再選セララルコトヲ得

第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其職務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條 會長幹事ニハ手當トシテ各年金三百圓ヲ給與スヘシ但第五條ノ賜金アル者ハ之ヲ給與セス

第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス

第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

●東京圖書館官制

明治二十二年三月 勅令第二十一號

朕東京圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京圖書館官制

第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ各種ノ圖書ヲ蒐集保存シ及閱覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

●東京圖書館官制第五條改正

明治二十三年十月
勅令第二百三十四號
朕東京圖書館官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
東京圖書館官制中左ノ通改正ス
第五條舊記ハ八人ヲ承テ庶務會計ニ從事ス

館長
館次長
書記

第三條 館長ハ一人奏任トス文部大臣ノ命ヲ承テ圖書ノ蒐集保存分類整頓及目錄編纂其他一切ノ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 館次長ハ一人奏任トシ現任館長ノ次等以下トス館長ノ職務ヲ佐ケ館長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

●文部省直轄諸學校官制改正

明治二十三年十月
勅令第二百三十三號

朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等師範學校官制

第一條 高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校中學校及小學校ノ教員ヲ養成スル所トス

第二條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク

第三條 高等師範學校ニ東京教育博物館ヲ附設ス

東京教育博物館ハ普通教育ニ關スル諸般ノ物品ヲ陳列シ參考ニ便スル所トス

第四條 高等師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク
勅任二等以下奏任二等以上

學校長 奏任

教授 判任

助教授 奏任四等以下

教諭 判任

助教諭 判任

訓導 奏任四等以下

幹事 奏任五等以下判任四等以上

舍監 奏任五等以下判任四等以上

書記 判任

第五條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第六條 教授ハ十五人トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ二人トス教授ノ職掌ヲ助ク

第七條 教諭ハ二人トス附屬中學校生徒ノ授業ヲ掌ル

助教諭ハ十二人トス教諭ノ職掌ヲ助ク

第八條 訓導ハ十一人トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル

第九條 幹事ハ專任官ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス

第十條 舍監ハ專任官ハ二人トス學校長又ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 書記ハ十一人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十二條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ東京教育博物館主事ヲ命シ館務ヲ掌ラシム

第十三條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

此他臨時ノ須要ニヨリ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

女子高等師範學校官制

第一條 女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ女子師範學校高等女學校及小學校ノ女教員並幼稚園保姆ヲ養成スル所トス

第二條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第三條 女子高等師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク
學校長 奏任三等以上

教授 奏任

助教授 判任

教諭 奏任四等以下

助教諭 判任

訓導 判任

保姆 判任

幹事 奏任四等以下

舍監 奏任五等以下判任四等以上

書記 判任

第四條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 教授ハ十一人トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ二人トス教授ノ職掌ヲ助ク

第六條 教諭ハ五人トス附屬高等女學校生徒ノ授業ヲ掌ル

助教諭ハ十三人トス教諭ノ職掌ヲ助ク

第七條 訓導ハ二十人トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル

第八條 保姆ハ三人トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第九條 幹事ハ專任官ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス
第十條 舍監ハ專任官ハ二人トス學校長又ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 書記ハ九人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十二條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得
此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

高等中學校官制

第一條 高等中學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ高等ノ普通教育ヲ授ケ及大學並高等專門學科ノ學習ニ須要ナル豫備ヲ爲サシムル所トス

高等中學校ハ全國ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一校ヲ置キ第一高等中學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校トス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 高等中學校ハ法科文科理科醫科工科農科商科等ノ專門學部ヲ設クルコトヲ得

第三條 高等中學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

奏任三等以上

教授

奏任

助教授

判任

幹事

奏任四等以下

舍監

奏任五等以下判任四等以上

書記

判任

第四條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ專任官ハ各學校一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス

第七條 舍監ハ專任官ハ各學校二人トス學校長又ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 各學校教官及書記ノ定員左ノ如シ

教授

助教授

書記

第一高等中學校 六十四人 五十二人 二十三人
 第二高等中學校 二十六人 二十四人 八人
 第三高等中學校 五十二人 二十七人 十二人
 第四高等中學校 二十九人 二十七人 八人
 第五高等中學校 三十人 三十二人 十人

第十條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ専門學部主事ヲ命シ部務ヲ掌ラシム

第十一條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ各學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

第十二條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等中學校ハ山口高等中學校及鹿兒島高等中學造士館トス

第十四條 山口高等中學校及鹿兒島高等中學造士館ハ總テ此官制ノ規定ニ依ル其教官及書記ノ定員左ノ如シ

山口高等中學校 教授 十人 助教授 九人 書記 五人
 鹿兒島高等中學造士館 八人 十三人 五人

高等商業學校官制

第一條 高等商業學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ商務ヲ處理經營スヘキ者又ハ商業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 高等商業學校ニ附屬主計學校ヲ置ク附屬主計學校ハ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ關スル必須ノ學科及實務ヲ教授スル所トス

第三條 高等商業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長 奏任三等以上
 教授 奏任
 助教授 判任
 幹事 奏任四等以下
 舍監 奏任五等以下判任四等以上
 書記 判任

第四條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ク校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 教授ハ二十三人トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ二十六人トス教授ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ專任官ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス

第七條 舍監ハ二人トス學校長又ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 書記ハ十一人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ

文部大臣之ヲ命ス

第十條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ

得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑托スルコトヲ得

此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於

テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

東京工業學校官制

第一條 東京工業學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ職工長又ハ工業科ノ教員タルヘキ者

ヲ養成スル所トス

第二條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

附屬職工徒弟學校ハ主トシテ木工若クハ金工ヲ業トスル者ノ子弟ニ實業ヲ授ケ適

長ノ職工ヲ養成スル所トス

第三條 東京工業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教授

助教授

幹事

書記

技手

奏任三等以上

判任

奏任四等以下

判任

判任

第四條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條 教授ハ十二人トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ十六人トス教授ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ヲ幹理ス

第七條 書記ハ九人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條 技手ハ十三人トス上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ

助ケシムルコトアルヘシ

第九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ

文部大臣之任命ス

第十條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得
此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

東京美術學校官制

第一條 東京美術學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ繪畫彫刻建築及美術工藝ノ技術者又ハ普通ノ圖書教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 東京美術學校ニ左ノ職員ヲ置ク
校長
奏任三等以上

教授
奏任

助教授
判任

幹事
奏任四等以下

書記
判任

技手
判任

第三條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 教授ハ十八人トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ十人トス教授ノ職掌ヲ助ク

第五條 幹事ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス

第六條 書記ハ五人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條 技手ハ二人トス上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

第八條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ

文部大臣之任命ス

第九條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ

得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於

テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

東京音樂學校官制

第一條 東京音樂學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ音樂師又ハ音樂教員タルヘキ者ヲ養

成スル所トス

第二條 東京音樂學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長 奏任三等以上
 教授 奏任
 助教授 判任
 幹事 奏任四等以下
 書記 判任
 第三條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス
 第四條 教授ハ七人トス生徒ノ教授ヲ掌ル
 助教授ハ八人トス教授ノ職掌ヲ助ク
 第五條 幹事ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス
 第六條 書記ハ五人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
 第七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス
 第八條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得
 此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

東京盲啞學校官制

第一條 東京盲啞學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ盲啞教育法ノ模範ヲ示シ兼テ盲啞ヲ教育スル所トス
 第二條 東京盲啞學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 學校長 奏任
 教諭 奏任三等以下
 助教諭 判任
 幹事 奏任四等以下
 書記 判任
 第三條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス
 第四條 教諭ハ三人トス生徒ノ授業ヲ掌ル
 助教諭ハ八人トス教諭ノ職掌ヲ助ク
 第五條 幹事ハ一人トス學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ幹理ス
 第六條 書記ハ二人トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
 第七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

第八條 教官ノ缺員アルトキ又ハ特別ノ必要アルトキハ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ外國教師ヲ雇入レ又ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得
 此他臨時ノ須要ニ依リ學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

○農商務省

●農商務省官制改正

明治二十三年六月 勅令第百二號

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

- 第一條 農商務大臣ハ農、商、工、及水産、林野、鑛山、地質、發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外褒賞ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第三條 農商務省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 農商工諮詢會ニ關スル事項
 - 二 圖書並報告書類ノ刊行及管理ニ關スル事項
 - 三 内外博覽會及共進會ニ關スル事項

四 其他各局ノ主掌ニ屬セサル事項

第四條 農商務省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第五條 參事官ハ通則ニ掲クル事項ノ外臨時命ヲ承テ鑛山山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス

第六條 農商務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

農務局

商工局

山林局

鑛山局

特許局

會計局

第七條 農務局長商工局長山林局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ鑛山局長特許局長會計局長及ハ奏任一等以下三等以上トス

第八條 農務局商工局及山林局ニ局次長ヲ置ク

第九條 農務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農會及農業組合ニ關スル事項

- 二 農業及園藝ノ改良保護ニ關スル事項
- 三 農業土木及土地生産力ノ改良ニ關スル事項
- 四 農産物蟲害豫防及驅除ニ關スル事項
- 五 蠶茶業ノ改良及組合ニ關スル事項
- 六 獸醫開業免許及試験ニ關スル事項
- 七 蹄鐵工開業免許及試験ニ關スル事項
- 八 免許獸醫及蹄鐵工ノ犯則處分ニ關スル事項
- 九 家畜家禽ノ衛生ニ關スル事項
- 十 牛馬籍ニ關スル事項
- 十一 狩獵免許ニ關スル事項
- 十二 家畜家禽及有益蟲類ノ蕃殖改良ニ關スル事項
- 十三 漁業組合ニ關スル事項
- 十四 漁業漁場ノ區域及監督ニ關スル事項
- 十五 漁具漁船漁法ノ改良及取締ニ關スル事項
- 十六 水産ノ蕃殖改良及水産物製造ノ改良ニ關スル事項
- 十七 鹽田ノ改良及保護ニ關スル事項

- 十八 農事及家畜家禽水産ニ係ル報告並統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十條 商工局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 商業會議所及商工同業組合ニ關スル事項
 - 二 度量衡ニ關スル事項
 - 三 商事會社ニ關スル事項
 - 四 商業仲立人及仲立人組合ニ關スル事項
 - 五 内外通商ニ關スル事項
 - 六 相場所ノ營業ニ關スル事項
 - 七 工場製造所ニ關スル事項
 - 八 保險營業ニ關スル事項
 - 九 商工業ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十一條 山林局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 森林施業方按ニ關スル事項
 - 二 林野ノ區域及境界ノ調査ニ關スル事項
 - 三 官有林野ノ土地及物産ノ利用ニ關スル事項
 - 四 官有林野ノ保護蕃殖ニ關スル事項

- 五 官有林野ノ土木ニ關スル事項
- 六 民有林ノ保護ニ關スル事項
- 七 保存林ニ關スル事項
- 八 林野臺帳調整ニ關スル事項
- 九 林野ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十二條 鑛山局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 鑛業ノ許否ニ關スル事項
 - 二 鑛區ノ境界及位置訂正ニ關スル事項
 - 三 鑛區ノ合併分割ニ關スル事項
 - 四 鑛業ノ保護ニ關スル事項
 - 五 鑛業ノ技術ニ關スル事項
- 第十三條 特許局ニ於テハ發明意匠及商標ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第十四條 特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム
- 第十五條 農商務省特許局ニ專任審判官二人專任審査官七人ヲ置ク

- 審判官ハ委任トス審判ノ事ヲ掌ル
 - 審査官ハ委任トス審査ノ事ヲ分掌ス
 - 第十六條 農商務省試補ハ五人ヲ以テ定員トス
 - 第十七條 農商務省ニ技師十七人審査官補十二人及技手五十六人ヲ置ク
 - 審査官補ハ判任トス特許局ニ屬シ審査官ノ事務ヲ佐ク
 - 第十八條 農商務省技師試補十二人ヲ置ク
 - 第十九條 農商務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス
- 特許局庶務部審判部審査部分掌規程
- 明治二十一年一月
農商務省令第一號
- 特許局庶務部審判部審査部分掌規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 特許局分掌規程
- 第一條 庶務部第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公文往復ニ關スル事項
 - 二 會計ニ關スル事項
 - 三 特許願書檢閲ニ關スル事項
 - 四 他部課ノ主管ニ屬セサル事項

第二條 庶務部第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 特許証登錄証發行ニ關スル事項

二 特許發明明細書及特許登錄ニ關スル公報等編纂印刷ニ關スル事項

三 願書明細書類保存ノ事

四 讓與分與等ニ關スル事項

五 圖面ノ檢定及製圖ノ事

第三條 庶務部圖書館ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 參考用圖書ノ保管及觀覽ニ關スル事項

二 未特許發明標本管理ノ事

三 特許發明品及登錄商標意匠等ノ陳列所ニ關スル事項

四 内外國文書翻譯ノ事

第四條 審判部ニ於テハ審査官ノ査定ニ對スル不服事件ノ審判ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 審査部ハ之ヲ六部ニ分チ其事務ヲ分任セシム

一 第一部ニ於テハ發明牒觸ノ審理査定ニ關スル事務ヲ掌ル

一 第二部ニ於テハ商標ノ審査及登錄ニ關スル事務ヲ掌ル

一 第三部ニ於テハ意匠ノ審査及登錄ニ關スル事務ヲ掌ル

●特許局分掌
規程第四條中
刪除
明治二十二年
農商務省令
第四號
月(一)
農商務省令
第一號
農商務省令
第一號
不服事件ノ對スル
官制ニ對スル
不服事件ノ對スル
五字ヲ刪除ス

- 一 第四部ニ於テハ機械的發明ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第五部ニ於テハ化學的發明ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第六部ニ於テハ第四部第五部ニ屬セサル發明ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル

●地質調査所官制

明治二十三年六月
勅令第百三號

朕地質調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地質調査所官制

第一條 地質調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 土性調査ニ關スル事項

二 主產植物及土性ノ關係試驗ニ關スル事項

三 地質ノ關係地層ノ構造及鑛床ノ檢定ニ關スル事項

四 有用鑛物ノ檢定ニ關スル事項

五 有用物料ノ分析試驗ニ關スル事項

六 地形測量ニ關スル事項

七 土性圖及其說明書編纂ニ關スル事項

八 地質圖及其說明書編纂ニ關スル事項

九 實測地形圖編纂ニ關スル事項

第二條 地質調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 奏任

技師 十八人

技師試補 六人

技手 二十五人

書記 五人 判任

第三條 所長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ地質調査所全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技師及技師試補ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

●大小林区署官制改正

明治二十三年七月 勅令第百二十七號

朕大小林区署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大小林区署官制

第一條 大林区署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項

二 官林ノ境界調査分合ニ關スル事項

三 官林ノ施業ニ關スル事項

四 官林ノ產物賣拂ニ關スル事項

五 小林区署業務監督ニ關スル事項

第二條 大林区署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

林務官

林務官補

書記

第三條 林務官ハ奏任二等以下トシ十六人ヲ以テ定員トス大林区署長ト爲リ山林局

長ノ指揮監督ヲ承ケ署中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 林務官補ハ判任五等以上トシ九十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署

務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任三等以下トシ百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務

ニ從事ス

第六條 小林区署ハ大林区署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官林ノ保護ニ關スル事項
 - 二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事項
 - 三 官林ノ産物採取及賣拂ニ關スル事項
 - 四 官林ノ測量製圖ニ關スル事
- 第七條 小林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

營林主事

營林主事補

森林監守

第八條 營林主事ハ判任三等以下トシ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長ト爲
リ上官ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第九條 營林主事補ハ判任五等以下トシ四百八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ
承ケ署務ヲ分掌ス

第十條 森林監守ハ判任六等トシ四百八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官
林ノ保護ニ從事ス

● 大林區署名稱位置及管轄區域改正

明治二十二年九月
閣令第二十四號

明治十九年五月閣令第十二號大林區署名稱位置及管轄區域左ノ通改正ス

名	稱	位	置	管轄區域
宮城	大林區署	陸前國仙臺	宮城縣	山形縣
秋田	大林區署	羽後國秋田	秋田縣	
青森	大林區署	陸奥國青森	青森縣	
巖手	大林區署	陸中國盛岡	巖手縣	
栃木	大林區署	下野國宇都宮	栃木縣	福嶋縣
東京	大林區署	武藏國東京	東京府(小笠原島及伊豆七島ヲ除ク)	埼玉縣 千葉縣 茨城縣
長野	大林區署	信濃國長野	長野縣(信濃國西筑摩、上下伊那、諏訪ノ四郡ヲ除ク)	
石川	大林區署	加賀國金澤	石川縣 富山縣 福井縣	
大阪	大林區署	攝津國大阪	大阪府(內飛騨國大野青城ノ二郡)	
兵庫	大林區署	攝津國神戸	三重縣 和歌山縣 奈良縣	
廣嶋	大林區署	安藝國廣嶋	兵庫縣 鳥取縣 岡山縣	
高知	大林區署	土佐國高知	廣島縣 嶋根縣 山口縣	
愛媛	大林區署	伊豫國松山	高知縣	
福岡	大林區署	筑前國福岡	愛媛縣 德嶋縣 香川縣	
			福岡縣 佐賀縣 長崎縣	

熊本 大林區署 肥後國熊本 熊本縣 大分縣
鹿兒嶋大林區署 薩摩國鹿兒嶋 鹿兒嶋縣 宮崎縣

富岡製絲所官制改正 明治二十三年七月 勅令第百十六號

朕富岡製絲所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

富岡製絲所官制

第一條 富岡製絲所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絲ノ事業ヲ經營シ其ノ改良ヲ圖リ及之ニ關スル必要ノ事務ヲ處理スルコトヲ掌ル
第二條 富岡製絲所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

屬 六人

技手 五人

第三條 所長ハ奏任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全部ノ事ヲ掌理ス
第四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ事ニ從事ス
第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絲ニ關スル技術ニ從事ス

○遞信省

遞信省官制改正 明治二十三年六月 勅令第百十二號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

第一條 遞信大臣ハ郵便、電信、航路標識及船舶海員ニ關スル事務ヲ管理ス
第二條 遞信省ニ總務局ヲ置カス
第三條 遞信大臣官房ハ通則ニ掲クル官房及總務局掌理事務ノ外左ノ事務ヲ掌ル
一 理財ニ關スル事項
二 會計ノ下検査ニ關スル事項
三 廳舎建築ニ關スル事項
四 物品購買賣却ニ關スル事項
五 電信及航路標識用品製作ノ管理ニ關スル事項
第四條 遞信省ニ左ノ諸局ヲ置ク

郵務局

電務局

管船局

燈臺局

會計局

- 第五條 郵務局ハ郵便ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第六條 電務局ハ電信ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第七條 管船局ハ船舶海員ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 燈臺局ハ航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 會計局ハ金錢物品ノ出納管守ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 郵務局長及電務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ管船局長燈臺局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス
- 第十一條 遞信省專任參事官ハ二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス
- 第十二條 郵務局及電務局ニ局長ヲ置ク
- 第十三條 遞信省ニ通信事務官八人ヲ置ク通信事務官ハ郵便、電信又ハ計算ノ事務ヲ分掌シ若クハ郵務局及電務局ニ課長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス
- 通信事務官ハ奏任四等以下トス
- 第十四條 遞信省ニ司檢官十八人及司檢官補十一人ヲ置ク司檢官ハ管船局ニ屬シ海員水先人ノ試験審問船舶ノ検査測量及新造船ノ工事監督ヲ掌リ司檢官補ハ管船局ニ

●郵便及電信局官制改正

明治二十三年七月十九號 勅令第百二十九號
 朕郵便及電信局官制改正ノ旨ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 中左ノ通り改正追加ス

- 屬シ司檢官ノ事務ヲ佐ク
- 司檢官ハ奏任トシ司檢官補ハ判任トス
- 第十五條 遞信省ニ技師十二人技手二百五十六人ヲ置ク
- 第十六條 遞信省ニ試補三人ヲ置ク
- 第十七條 遞信省ニ屬三百九十九人ヲ置ク

●郵便及電信局官制

明治二十二年七月 勅令第九十六號

朕地方遞信官官制ヲ廢シ更ニ郵便及電信局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 郵便及電信局官制
- 第一條 郵便電信ノ業務ヲ執行スル爲地方ニ郵便電信局郵便局及電信局ヲ置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム
- 第二條 郵便電信局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ
- 郵便電信局長
- 郵便電信書記
- 東京及大阪郵便電信局ニ限リ事務官二人ヲ置ク
- 第三條 郵便局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

記ノ次ニ電信書記
補ノ五字ヲ加フ
第十一條 左ノ通
ム、電信書記補便
電、電信書記補便
判、事務ヲ助グ、第
十一條ノ次ニ左ノ
二條ノ次ニ左ノ第
二條ノ次ニ左ノ第
條、第十四條ニ改
ム、第十四條ニ改
電、電信書記補便
電、電信書記補便
七、百三十五人ヲ以
テ定ム、五十人ヲ以
三、條郵便電信局及
電信局ニ電信技手
ヲ置ク九百四十七
人ヲ以テ定ムトス

郵便局長
郵便書記

第四條 電信局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

電信局長
電信書記

第五條 郵便電信局郵便局及電信局ノ等級ヲ分テ各一等二等三等トス

第六條 一等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ奏任又ハ判任トス其ノ奏任ヲ以テ局長ニ任スル局ノ位置及其ノ局長ノ官等ヲ定ムルコト左ノ如シ

東京 大阪

以上局長奏任匹等以上トス

京都

横濱

神戸

長崎

函館

新潟

名古屋

熊本

仙臺

廣島

以上局長奏任三等以下トス

二等三等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ判任トス但三等ノ各局長ハ逡信大臣別ニ定ムル採用規則ニ依リ任用スルモノトス
郵便電信局長郵便局長電信局長ハ逡信大臣ノ指揮監督ヲ受ケ局中全部ノ事ヲ管理

第七條 事務官ハ奏任トス其ノ官等ハ現任局長ノ次等以下トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便電信業務ヲ掌理シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第八條 郵便電信書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便電信業務ニ従事シ事務官ヲ置カサル局ニ於テハ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第九條 郵便書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便業務ニ従事シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第十條 電信書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ電信業務ニ従事シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第十一條 書記ノ事務ハ書記ノ外便宜雇員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
第十二條 一等郵便電信局一等郵便局一等電信局ハ逡信大臣ノ指定スル区域内ノ郵便電信局郵便局及電信局ノ業務ヲ監督ス

東京郵便電信學校官制制定

明治二十三年三月 勅令第二十三號

朕東京電信學校官制ヲ廢止シ東京郵便電信學校官制制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●東京郵便電信學校官制
改正 明治二十三年八月十一日
勅令第百九十九號
朕東京郵便電信學校官制中改訂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
東京郵便電信學校官制中左ノ通改訂ス
一 第五條第一項「教授ハ」ノ下「五人」ノ二字ヲ加ヘ
二 第六條「助教ハ」ノ下「六人」ノ二字ヲ加ヘ
三 第七條「書記ハ」ノ下「二人」ノ二字ヲ加フ

東京郵便電信學校官制

- 第一條 東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス
- 第二條 東京郵便電信學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ
校長
幹事
教授
助教
書記
- 第三條 校長ハ一人奏任一等以下トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス
- 第四條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第五條 教授ハ奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル教授ノ人員ハ生徒ノ員數及其學科ニ應シ別ニ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第六條 助教ハ判任トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ佐ク
- 第七條 書記ハ判任トス校長若クハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

●郵便爲替貯金局官制

明治二十三年六月 勅令第百十三號

朕郵便爲替貯金局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替貯金局官制

- 第一條 郵便爲替貯金局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 郵便爲替貯金局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長 一人
事務官 三人
書記 百七十八人
書記補 四百十八人
- 第三條 局長ハ奏任一等以下三等以上トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 事務官ハ奏任四等以下トス局長ノ指揮ヲ受ケ局中ノ事務ヲ分掌ス
- 第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ従事ス
- 第六條 書記補ハ判任六等トス書記ノ事務ヲ助ク
- 第七條 遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ便宜郵便爲替貯金分局ヲ置キ其事務ヲ分掌セ

シムルコトヲ得

●商船學校官制

明治二十三年九月
勅令第百九十七號

朕商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條 商船學校ハ東京函館ニ置キ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 二人 奏任
- 幹事 二人 奏任
- 教授 五人 奏任
- 助教 十四人 判任
- 書記 七人 判任

第三條 校長ハ遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

- 第五條 教授ハ現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒教授ノ事ヲ掌ル
- 第六條 助教ハ校長ノ監督ヲ承ケ教授ヲ佐ク
- 第七條 書記ハ校長若クハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

●東京大阪函館神戸船舶検査所及大阪海員試験所改

稱竝取扱事務

明治十九年三月
遞信省達第十一號

東京大阪函館神戸船舶検査所及大阪海員試験所ヲ司檢所ト改稱ス

前記司檢所ニ於テ取扱フ所ノ事務ハ左ノ如シ

- 東京司檢所ニ於テハ 大坂及函館司檢所ニ於テハ 神戸司檢所ニ於テハ
 - 一海員技術試験 一海員技術試験 一船舶検査
 - 一船舶検査 一船舶検査 一水先人試験

○各省通則

●各省事務整理ノ綱領

明治十八年十二月
二十六日

明治十八年十二月
二十三日内閣ノ詔
勅ト參看スヘシ

本月二十三日ノ聖詔ヲ奉體シ左ニ各省事務ヲ整理スルノ綱領ヲ舉ケ以テ將來ノ標準ヲ示ス各省大臣此範圍内ニ於テ便宜斟酌シ案ヲ具ヘテ閣議ニ提出スヘシ

一 官守ヲ明ニスル事

我カ官制ハ草創ノ餘未ダ限ルニ定員ノ制ヲ以テセス濫弊從テ生シ官愈々多クシテ務愈々壅カルコトヲ免カレス十年ニ一タヒ官制ヲ改メ教部省ヲ廢シ內務省ニ併セ各省奏判官ヲ減ノ其過半數ヲ罷メタリ然ルニ當時定員ノ制ヲ設ケテ以テ將來ヲ防範セサリシニ因リ其後又更ニ漸クニ増員シ從テ減テ從テ加ハリ以テ其初メニ倍スルニ至レリ今ニ於テ各省大臣宜シク 詔意ヲ奉體シ左ノ節目ニ依リ各省內局課ノ設置ヲ定メ官吏ノ員數ヲ限リ節減淘汰ノ意見ヲ具ヘテ閣議ニ付シ各省ヲシテ略均一ナラシメ成案トナシ然ル後上奏シテ裁ヲ請フヘシ

一 各省次官一人ニ限ル

一 各省書記官ハ其省ノ須要ニ從ヒ定員ヲ限ル

一 省中各局ニ屬セサルノ分課ハ其省書記官ノ内ヲ以テ課長ニ充ツ

一 省務ノ枝分シテ別ニ一部ヲ爲シ經常ニ繼續スヘキ者ヲ局トス局長一人又ハ局長局次長ヲ置ク

一 本省又ハ局中ノ事務ヲ分テ課ヲ設クルハ各省ノ便宜ニ從フ

一局長及局次長ハ奏任トス局中ノ課長ハ判任ヲ以テ之ニ充ツ

一局ノ等給ヲ分テ一等局二等局トナスハ事務ノ繁簡輕重ニ從ヒ各省大臣ノ具狀スル所ニ依リ裁定ヲ經ヘシ

一局課ノ設置一定ノ後省務ノ變更ニ依リ新ニ廢置ヲ要シ又ハ新ニ奏任官ノ定員ヲ

増サント要スルトキハ理由ヲ具ヘテ閣議ノ後裁可ヲ請フヘシ

一 各省ノ須要スル所ニ從ヒ定員ヲ限リ參事官ヲ置キ審議立案ノ職ニ供フルコトヲ

得

一 以上定員ノ外出仕又ハ御用掛ノ名義ヲ以テ補任スルコトヲ得ス

一 各省大臣ハ局課ノ規程ヲ定メ局長課長ヲシテ責任スル所ヲ知ラシムルヲ要ス

前項ノ規程ハ可成各省均一ヲ要スル爲ニ閣議ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

一 八等官以下ハ各省ノ須要ニ從ヒ定額俸給項内ニ於テ各省大臣之ヲ判任スヘシ

一 各省大臣ハ臨時事務ノ爲ニ判任常員ノ外ニ定額内ニ於テ備員ヲ使用スルコトヲ

得

一 學術專科ニ係ル官制及警視收稅典獄ノ類ハ別ニ定ムル所ニ依ル

一 特ニ一事件ヲ審査セシムル爲ニ委員ヲ設ケ又ハ臨時ノ事務ヲ擔當セシムル爲ニ

掛ヲ設ケ省中定員ノ人ヲ使用スルハ各省大臣ノ權内トス

一 各省ニハ檢テ經タル試補ヲ置キ省局ノ事務ヲ練習セシメ闕官アルヲ持テ補任ス各省試補ノ數ハ閣議ノ定ムル所ニ依ル

一 試補ニ關スル規則ハ追テ裁定ヲ經公布スヘシ

一 官吏一省内ニ於テニツノ事務ヲ兼テシムルヲ得ルモ二省ニ涉リテ兼ヌルコトヲ得ス若シ止ムヲ得サルノ要用ニ依リテ兼官セシムルモ兼官ハ一年ヲ過ルコトヲ得ス

一 他省ニ涉リテ兼官スルモノハ兼ヌル所ノ官俸三分ノ一ヲ増給スヘシ但武官コシテ文官ニ任スルハ此例外タリ

以上ハ官制ノ綱領トス各省案成ルノ後裁可ヲ經一定公布スル所アルヘシ

奏任以上ハ官ニ職權アリテ各機關ノ一部ニ當ル者ナリ屬官ハ使用ヲ受ル者ナリ從前官制ノ區別明ナラスシテ雇等外ノ年ヲ經タル者ハ進テ屬官ニ昇リ屬官ノ年資ヲ經タル者ハ進テ奏任ニ列ス是レ試驗法ナキノ致ス所ニ由ル今既ニ試驗法ヲ定ムルトキハ凡ソ奏任ノ官ハ必ス高等試驗ヲ經ル者ニ限り屬官ノ年勞ヲ積ム者ハ漸クニ其俸給ヲ増シ奏任初等官即現七等官ト相匹等セシムルコトヲ得ヘシ其陞テ奏任トナスニ至テハ必異常功績アリテ大臣ヨリ狀ヲ具ヘ奏請シ又ハ高等試驗ヲ經ル者ニ限ルヘシ此皆冗濫ヲ防クノ道ナリ

明治四年ニ官等ヲ定メテ以來俸給ヲシテ官等ト相配當セシメ以テ才ヲ使フノ道ヲ狹限シタリ今之ヲ改正シ凡ソ何ノ官ヲ論セス試驗ニ由テ進ム者ハ各官繁簡ニ從ヒ各數等俸ヲ定メ次第ニ陞テ増俸ヲ得セシムヘシ本項俸給ニ關スル規則ハ追テ閣議ノ後裁可ヲ經テ公布スル所アルヘシ

二 選叙ノ事

選叙ノ法未タ定マラスシテ人各知ル所ヲ學ク而シテ成學ノ士或ハ其進ム所ヲ失フ此レ皆制度ノ未ク備ラサル者ニシテ勢ノ免レサル所ナリ今官制一タヒ定マリ官仕限アルニ及テ選叙ノ法仍設ケサルトキハ情弊ノ至ル處其失ニ堪ヘス而シテ行政部局其人ヲ得ルニ由ナカラントス

選叙ノ法ヲ行フニハ事創始ニ屬スルヲ以テ其規則節目ノ詳ナルハ委員ヲシテ審査セシメ閣議ヲ經ルノ後成案トナシ裁可ヲ請フヘシ今其大要ヲ舉ケテ以テ標準ヲ示ス

第一 仕進ハ試驗ニ由ラシムル事

第二 試驗ニ學術試驗ト普通試驗ヲ分ツ事

第三 學術試驗ニ初等試驗ト高等試驗ヲ分ツ事

第四 學術試驗普通試驗ノ外ニ專科試驗ヲ設クル事會計官吏ハ記簿法ヲ試驗シ外務官吏ハ外國語學ヲ試驗シ其他技術ヲ試驗スルノ類

第五 試驗人ハ定リタル試驗科目ノ外ニ隨意ニ其學フ所ノ專門學ノ試驗ヲ受クルコト

トテ得セシメ試験委員ニ於テ他ノ科目ト斟酌シテ之ヲ采取シ其優等ナル者ハ別ニ優等證ヲ付シ以テ才ヲ試ミルニ遺漏ナカラシムル事

第六 内閣中ニ試験委員ヲ設クル事

第七 各省ニ許可ヲ得テ設クル專科試験法ハ試験委員ト各省大臣トノ間ニ叶議制定セシムル事

第八 試験ニ依リ進ムヘキ官吏ノ出身ハ年齢性行健全才能ノ四件ヲ合セテ共ニ試験委員ノ審査ヲ經然ル後選用スル事

第九 學術試験合格者ハ一定ノ期限内試補トナシ事務ヲ見習ハシメ又ハ候補簿ニ登記スル事

第十 現勤判任官ヨリ奏任ニ昇ル者ハ少クトモ初等學術試験ヲ經セシムル事

第十一 判任ノ闕官又ハ需要アルトキハ普通試験ヲ行ヒ選用スル事

第十二 現勤等外及雇ヨリ等内官又ハ本官ニ任スル者其判任官ハ皆普通試験ヲ經セシムル事但特ニ一藝アル者ハ選用ヲ許ス

第十三 現勤判任及准奏判任御用掛雇等外官ニシテ學術試験ヲ請フ者ハ其情願ニ任スル事

第十四 試験委員ノ紀律ヲ嚴ニシ其公正ヲ保タシムル事

第十五 地方ノ屬官ヲ試験スルニハ別段ノ法方ニ依ル事

右ハ其概略ノ目的ヲ定ムル者ニシテ此レヲ實行スルニ至テハ更ニ委員ヲ命シ精確ノ審査ヲ經セシメントス

三 繁文ヲ省ク事

維新ノ後舊ヲ變シ新ニ就クノ際下司ノ上司ニ稟請シ命ヲ得テ始メテ施行スルヲ例トシ細大多端往復織ルカ如ク相因テ一ノ慣習ヲ成シ一令出ルコトニ疑問百出經伺ノ文簿積テ堆テ爲シ往々半年或ハ一年ニシテ始メテ定マル此レ從前各省及太政官ノ事務繁劇官吏冗多ナル所以ニシテ始メハ已ムヲ得サルノ勢ニ出テ終リニ因習ノ弊ニ堪ヘサル者ナリ文書繁多ノ弊ハ

第一 事務ヲ掩滯シテ疏通便捷ナラサラシメ公私ノ障害タリ

第二 官吏ヲ冗多ナラシム

第三 一部ヲ擔任スルノ官僚ヲシテ文書ニ倚賴シテ責任ノ意ヲ輕カラシム今此弊ヲ除カントセハ左ノ法方ニ依ルヘシ

第一 凡ソ布告ノ法律ハ疑問ナカラシムル爲ニ其説明ヲ要スル者ハ可成説明書ヲ附シ各官廳ニ達スル事

第二 府縣長官及其他一局部ノ長タル者ハ法律命令ヲ施行スルニ付テ其明文アル者

ニ付キ經伺シテ指令ヲ請フコトヲ得ス其明文ナキ者モ實際ノ事務ヲ延滞セサラシムル爲メニハ法律ノ精神ニ由リ處分施行スルヲ以テ當然トナス事

其他公文ノ底滞シテ或ハ歲月ヲ經過シ緩慢ニシテ敏活ナラサルハ施政ノ大弊ニシテ公私ノ病患此ヨリ大ナルハナシ今此ヲ救フノ要領ハ左ノ數點ニ外ナラサルヘシ

第一 文書受付往復ノ程限ヲ設ケ事ノ輕重緩急ニ從ヒ相當ノ期日ヲ定メ稽滞ヲ以テ過失トシ主任ノ官吏其責ニ任セシムル事

第二 事務ノ各局課ニ關涉スル者ハ各局課ノ間或ハ會議法ヲ設ケ或ハ主任官互ニ面議ヲ行ヒ議決ノ即時ニ捺印シ從前ノ回覽法ニ換ヘ異議附箋ノ煩ヲ除ク事

第三 文書ニ記録ノ要用ト不要トヲ分テ其不要ナル者ハ件銘日時ヲ日記ニ登錄スルニ止メ原文ノ騰寫ヲナサハル事

第四 各局長ハ每週一次又ハ二次其局ノ文書往復ノ簿冊ヲ查閱シ稽滞ヲ檢明シ各省次官ハ毎月一次又ハ二次其省ノ文書往復ノ簿冊ヲ查閱シ稽滞ヲ檢明スルノ類ノ方法ヲ行フ事

第五 各局長以下ハ大臣又ハ次官ノ命ナシテ定期ノ外文書ヲ留置クノ權ナキ事

以上ハ其大概ヲ略說スルニ止マル者ニシテ其實施ノ順序節目ニ至テハ固ヨリ各省ノ便宜ニ屬シ各省大臣其規程ヲ設クルノ權内ニ在ル者タリ但タ此事各省ノ整理ニ關シ

可成均一ヲ要スルヲ以テ茲ニ之ヲ提舉シテ以テ標準ヲ示ス

四 冗費ヲ節スル事

凡ソ行政官務整頓嚴確ナルノ國ハ其經費必節省ナラサルハナシ蓋富強ノ道ハ多費ニ在ラスシテ施ス處其實ヲ務メ緩急其要ヲ得テ以テ成效ヲ永久ニ期スルニ在リ維新以來歲出ノ歲ヲ逐テ増加スルハ内外政務ノ多端ナル實ニ己ムコトヲ得サルニ由ルト雖トモ明治六年ノ會計表ニ據リ此レヲ昨十七年度ノ歲出ト比較スルニ幾ント四分ノ一ヲ増加シタリ又俸給一項ヲ以テ之ヲ言フニ明治六年ノ概數ニ據リ之ヲ十七年度ニ比較スルニ即チ十分ノ六チ増加シ又九年十年度ノ概數ニ據リ之ヲ十六七年度ニ比較スルニ即チ三分ノ一チ増加シタル實務ノ擧カル處成果ノ得ル處未タ經費ノ遞増ト相比例スルニ至ラス今宜シク務メテ省減ヲ行ヒ各省ノ定額ハ内閣ニ於テ事物ノ緩急ヲ料リ之ヲ總判畫定シ超ユヘカラサルノ限ヲ爲シ各省大臣ハ全局ノ平衡ヲ顧ミ以テ各々其省ノ費用ヲ節省スヘシ

奏任以上ハ官ニ定員アリ判任以下ハ各省大臣定額俸給項内ニ於テ便宜ニ使用スルコトヲ得今變更ノ際一タヒ節減ヲ行ヒ更ニ永久ニ繼續シテ濫弊ヲ防制スル爲ニ各省院府縣廳ハ毎月官吏ノ員數并俸給ヲ統計シ翌月十日迄ニ之ヲ檢査院ニ報告セシメ檢査院ニ於テ其制ヲ踰エ限ニ過ル者ヲ檢出シタルトキハ内閣總理大臣ニ上申シテ處分ヲ

請ハシムヘシ
 検査院ハ單ニ會計出入ノ検査ニ止マルノミナラス需費ノ成績ニ就テ事業ノ得失ヲ察シ各廳内部ノ處務ニ注目シ務メテ儉省確實ノ方法ヲ計畫シテ内閣ニ提出シ以テ行政全部ノ注意ヲ促スヲ得セシムヘシ各省ノ事務互ニ相重複スル者ハ閣議ヲ經テ其一ヲ減省スヘシ

五 規律ヲ嚴ニスル事

官吏ノ品格ハ實ニ政府ノ威信ニ係リ官吏ノ忠順慎密勤勉清廉ハ政務ノ得失ニ於テ密接ノ關聯ヲ相爲ス此レ宜シク其規律ヲ嚴ニシ秩序ヲ正シクシ一ハ以テ官務ヲ整理シ一ハ以テ忠順廉潔ノ風ヲ維持セサルヘカラス九年ニ官吏懲戒例ヲ設ケテ而シテ監督審理ノ方法備ラス未ダ具文ノ法タル事ヲ免レヌ將來懲戒裁判ヲ設ケ懲戒及罷免ノ規則ヲ定メ以テ官紀ヲ肅シ且以テ官吏ノ位置面目ヲ保護スルコト實ニ止ムヘカラサルノ必要タリ但タ此事他ノ官制ノ細目ト相關係スルヲ以テ現時未ダ舉行シ易カラサル者アリ抑モ官吏ノ規律ヲ張り其品格ヲ保ツテ以テ一日モ緩慢ニ付スヘカラス各省大臣ニ在リテ宜シク

詔意ヲ奉體シ各其權内ニ於テ振勵監督シ凡ソ官吏忠順誠實ノ大義ニ乖キ法律ヲ恪守セス機事ニ慎密ナラス務ヲ執テ勤勉ナラサル者ハ其情狀ニ從ヒ之ヲ告戒譴責シ或ハ

検査之ヲ懲罰スヘク贈遺ノ禁ハ細大ニ及ホシ職務曠廢ノ戒メハ其有意無心ヲ問ハス老朽務メニ堪ヘサル者ハ其官ヲ退カシムヘク務メテ核實嚴明ニシテ効力アルコトヲ要スヘシ其規則ニ涉ル者ハ更ニ裁ヲ經テ制定スル處アルヘシ

●各省官制通則

明治二十三年三月 勅令第五十號

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

- 第一條 本則中各省トアルハ外務省内務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省遞信省ヲ合稱ス
- 第二條 各省大臣ハ其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付其責ニ任スヘシ
- 主任ノ事務兩省以上ニ關涉スルトキハ關涉ノ各省大臣ノ間ニ協議ヲ經テ其主任ヲ定メ上奏スヘシ若シ各省大臣ノ間協議決定セサルトキハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ
- 第三條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ
- 第四條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ノ範

園内ニ於テ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ省令ヲ發スルコトヲ得
第五條 各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其省中各局課及其所轄官廳ノ處務細則
ヲ定ムルコトヲ得

第六條 法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除ク
ノ外各省大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコ
トヲ得

次官事故アルトキハ大臣其省中ノ高等官ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ
得

第七條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓
令ヲ下スコトヲ得

第八條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府縣知事ヲ監督スヘシ
若シ警視總監北海道廳長官府縣知事ノ處分又ハ指令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ
權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其處分指令ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第九條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ之ヲ奏薦宣行シ判任官以下
ハ之ヲ專行ス

府縣書記官警部長鳴司郡長ノ進退ハ内務大臣收稅長ノ進退ハ大藏大臣之ヲ奏薦宣

行ス

第十條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ敘位叙勳及恩給ヲ上奏スヘシ

第十一條 各省大臣ハ毎年六月中ニ前會計年度ノ功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ヲ經テ上
奏スヘシ

第十二條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十三條 各省大臣ハ一週年末ニ其省ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞ア
ル者ヲ賞與シ之ヲ官報ニ公録スルコトヲ得

第十四條 各省大臣ハ法律勅令ノ定ムル所ニ從ヒ部下ノ官吏ヲ懲戒ス

第十五條 各省職員ヲ置ク左ノ如シ

次官

局長

參事官

秘書官

書記官

試補

屬

第十六條 各省ニ次官一人ヲ置ク勅任トス

第十七條 次官ハ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス

第十八條 次官ハ大臣ノ命ヲ承ケ第六條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ノ事務ヲ處理ス

第十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得

第二十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密文書ニ關スルコト

二 機密事務ニ關スルコト

三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト

四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト

五 其他各省官制ニ依リ特ニ官房ノ所掌ニ屬セシムルモノ

第二十一條 各省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲ニ總務局ヲ置ク總務局長ハ次官ヲ以テ之ニ充ツ

總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト

二 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト

三 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣ノ査閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト

四 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト

五 其他各省官制ニ依リ特ニ總務局ノ所掌ニ屬セシムルモノ

第二十二條 各省ノ便宜ニ從ヒ總務局ヲ置カス大臣官房ニ於テ其事務ヲ掌ルコトヲ得

第二十三條 各省中省務ヲ分掌スル爲各局ヲ置ク其分掌事務ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第二十四條 大臣官房總務局及各局ノ分課ハ各省大臣其省ノ便宜ニ從ヒ閣議ヲ經テ之ヲ定ム

陸軍省海軍省中ノ分課ハ其省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十五條 各局ニ局長一人ヲ置ク但局長ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

局長ハ勅任二等又ハ奏任三等以上トシ其官等ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム
局次長ハ奏任トス

第二十六條 局長ハ大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指
揮監督ス

第二十七條 局長ハ其主任ノ事務ニ付其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ事項
ハ之ヲ處理專行ス

第二十八條 局次長ハ局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ
大臣ノ命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス

第二十九條 參事官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ
掌ル

前項ノ外特ニ參事官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム
第三十條 參事官ハ其省ノ便宜ニ從ヒ局課ノ事務ヲ兼任シ若シハ臨時命ヲ承ケ其
事務ヲ助クルコトアルヘシ

第三十一條 祕書官ハ奏任トス大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル
祕書官ハ二人ヲ以テ定員トス

第三十二條 祕書官ハ臨時命ヲ承ケ各局ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第三十三條 書記官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ命ヲ承ケ大臣官房總務局又ハ各局ニ
分屬シテ其事務ヲ掌リ且課長ヲ兼ヌルコトヲ得

第三十四條 各省專任參事官專任書記官ハ併セテ八名以下トシ其定員ハ各省官制ノ
部ニ就テ之ヲ定ム

第三十五條 試補ハ定期間大臣ノ指命スル所ニ就キ其事務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノ
トス

各省試補ノ定員ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム
第三十六條 局中各課ニ課長一人ヲ置キ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ局長ニ承
ケ課務ヲ掌理ス

各省中特ニ奏任官ヲ以テ課長ヲ兼テシムルモノハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム
陸軍省海軍省中ノ課長ハ武官及理事主理ヲ以テ之ニ充ツ

第三十七條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ノ事ニ從フ
第三十八條 各省判任官ノ定員ハ各省官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

各省大臣ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ
得
第三十九條 本則ニ掲クルモノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省

官制ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十條 各省中特ニ補助員ヲ要シ又ハ顧問員ヲ要スルトキハ每次狀ヲ具ヘテ閣議ニ提出シ裁可ヲ請フヘシ

●官吏服務紀律改正

明治二十年七月 勅令第三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトキ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキ

ハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、

コトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者

一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受ルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

● 官吏公衆ニ對シ政事上學術上ノ意見ヲ演說又ハ叙述

スルコトヲ得 明治二十二年一月 內閣訓令無號

各官廳

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ敘述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ
法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

● 諸官廳執務時間改正 明治二十三年三月 內閣訓令第二號

各官廳

自今諸官廳執務時間左ノ通改定ス

四月二十日ヨリ七月十日迄 午前八時ヨリ午後三時ニ至ル

七月十一日ヨリ九月十日迄 午前八時ヨリ午後十二時ニ至ル

九月十一日ヨリ四月十九日迄 午前九時ヨリ午後四時ニ至ル

但土曜日日曜日ハ從前ノ通

事務繁劇ノ場合ニ於テハ上官ノ指揮ニ依リ晝夜ニ拘ハラヌ執務スヘシ

●會計検査院官制

明治十九年四月
勅令第二十號

朕會計検査院ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院官制

第一條 會計検査院ハ政府ノ會計ヲ検査スル爲ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

副院長

書記官

検査官

検査官補

屬

第二條 院長ハ一人勅任一等トス内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金錢物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本別種金保管金抵當物品ノ會計ヲ審査判定シ支出入ノ決算報告書ニ對シ其當否ヲ證明スルコトヲ掌ル
審査判定及證明ノ手續ニ關スル検査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條 院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第四條 院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ検査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得

第五條 院長ハ検査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 院長ハ倉庫倉庫及出納ノ實況其他事業ノ審査ヲ要スルトキハ豫メ其旨ヲ通知シ検査官ヲ其廳ニ派遣シ主務官吏ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第七條 院長ハ會計正當ナリト判定シタルトキハ主任官吏ニ對シ認可狀ヲ下付ス其正當ナラサルモノハ該所屬長官ニ通知シ之カ處分ヲ爲サシメ又ハ時宜ニ依リ直ニ内閣總理大臣ニ具狀シ處分ヲ請フコトヲ得

第八條 院長ハ每會計年度ノ終リタル後五箇月以内ニ報告書ヲ調整シテ前年度ノ會計ニ就キ検査ノ功程ヲ内閣總理大臣ニ上申スヘシ及需費ノ成績ニ就キ行政上ノ意見ヲ開申スルコトヲ得

第九條 副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十條 書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル
第十一條 検査官ハ奏任トシ十人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計検査ノ事務ヲ
分掌ス

第十二條 検査官補ハ判任トス検査官ニ分屬シテ會計検査ノ事務ニ従事ス

第十三條 屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ従事ス

●會計検査院法

明治二十二年五月
法律第十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計検査院法

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別
ニ書記官二員検査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任ト
シ屬ハ判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故ノルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌
ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計検査官ハ刑事裁判若クハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉
官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ
得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長
トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス
一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
 四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
 五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ
 第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得

但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ
 前項ノ委託ニ拘ラズ會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之ヲ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得
 第十七條 金庫ノ出納及記簿上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辨ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ニ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計

院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●會計検査官資格

明治二十二年六月 勅令第八十號

朕會計検査官資格ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院法第六條ニ依リ會計検査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

第一 年滿三十歳以上ノ者

第二 五年以上検査官補又ハ五年以上他ノ高等行政官タル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

●會計検査院事務章程

明治二十二年九月
勅令第百六號

朕會計検査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
會計検査院事務章程

第一章 部課

第一條 會計検査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ケ各課ノ課長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ検査官補及屬若干員ヲ分屬セシム
第二條 會計検査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若クハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章 會議

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス
第四條 總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク
第五條 總會議ハ現員會計検査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニアラサレハ議事ノ効力ヲ有セス
出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得
検査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計検査官ノ數三分ノ一以內ニ限ル

第六條 總會議及部會議ハ課長ノ査閱ヲ經タル検査官補ノ報告書若クハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章 職員及權限

第七條 院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ銜位敘勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ増俸賞與ヲ行フ

第九條 検査官ハ奏任四等以上トシ検査官補ハ奏任四等以下トス

第十條 會計検査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

第一 各部及各課管理ノ事務ヲ定ム

第二 職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス

第三 検査官補ニ總會議出席ヲ命ス

第四 臨時屬官ニ指命シテ検査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス

第五 特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム

- 第六 奏任以下ノ官吏ニ派出検査ヲ命ス
- 第七 検査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム
- 第八 議事ニ關ル細則ヲ定ム
- 第九 會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス
- 第十 庶務及會計ニ關ル規定ヲ定ム
- 第十二條 院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ
- 第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得
- 再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス
- 第十四條 總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得
- 第十五條 院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

- 第十六條 院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得
- 第十七條 院長ハ検査ノ精數ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽查ヲ行フヘシ
- 第十八條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス
 - 第一 所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽查シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス
 - 第二 検査官補ニ部會議出席ヲ命ス
 - 第三 部中検査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス
 - 第四 部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス
- 第十九條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ
- 第二十條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以内ニ總會議ニ提出スルコトヲ得
- 第二十一條 部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス

其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條 課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條 課長ハ課中検査官補ノ調製スル文書ヲ査閲シ其ノ適當ヲ證シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ検査官補ノ責任ニ屬スルモノ、外ハ院長及部長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條 課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條 課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍内ニ於テ會計検査院法第十四條及第十五條ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ検査報告書又ハ行務成績書ニ掲載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條 検査官補ハ計算書證憑書ノ検査報告ヲ爲シ審理書其ノ他文書ノ起草ヲ掌ル

検査官補ハ各計算書ヲ對照シ及証憑書類ヲ検査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條 検査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲ス

第三十條 検査官補ハ院長若クハ部長ノ命ニ依リ検査官ノ闕席ヲ補充スル爲ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條 書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條 屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第四章 行務

第三十三條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條 會計ノ検査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一 命令官決算ノ検査

第二 出納官吏計算ノ検査判決

命令官決算ノ検査ハ總決算各省決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行ス